

# 目次

---

I	巻頭に際して	1
II	グローバル教育に関わる沿革	2
III	グローバル教育を支えているもの	4
IV	グローバル教育に関わる取組	
	A. 海外帰国生	9
	B. 留学生	11
	C. 様々な団体の受け入れ	16
	D. グローバル教育の実践	19
	E. イギリスの学校との交流	
	受入の記録	30
	事前学習の発表	31
	訪問の記録	32
	現地校での日本文化のプレゼンテーション	36
	訪問記	39
	報告会	40
	F. ドイツの学校との交流	
	受入の記録	41
	訪問の記録	45
	G. ニュージーランドの学校への訪問	
	訪問の記録	48
	事前学習の発表	56
	現地校での日本文化紹介	59
V	本校から海外への留学	64
VI	グローバル教育に係る授業改善について	66
VI	令和4年度グローバル教育に関するアンケート結果	71



# I. 巻頭に際して

---

## グローバル社会で活躍するリーダーの育成

神奈川県立鶴嶺高等学校  
校長 濱川 美奈子

令和4年度、新学習指導要領の実施と共に県立高校改革実施計画における「グローバル教育研究推進校」の指定を再度受け、2年目を迎えます。今回の指定での大きな取組のひとつである、総合的な探究の時間「グローバルスタディーズ」も1・2学年揃っての実施となりました。1学年では自己理解・地域理解を深め、2学年では国際理解をテーマに生徒一人ひとりが問題意識を高め、論文を発表します。2年間のグローバルスタディーズの学習を通して、自己の在り方や生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質能力を育成することに加え、異文化だけでなく自国文化への理解も深め、多様性に寛容な、グローバル社会で活躍するリーダーとしての資質を磨いています。

海外との交流では、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、対面での交流を再開しました。4年ぶりに本校生徒がニュージーランドとイギリスの交流校を訪問する一方、ホームステイ受入れに快く協力して下さる保護者の皆さまのおかげで、ドイツ姉妹校ザルツマンシュレーの生徒を迎えることができました。交流校の生徒や留学生は本校のみならず、隣接する円蔵中学校など近隣の小中学校の児童生徒とも交流を図る機会をいただき、ささやかですが、地域に貢献できたと自負しております。

さて、いよいよ来年度は指定校事業の最終年、まとめの年になります。この2年間を考察し、改善を図り、その成果を発表できるよう引き続き職員一同取組んでまいります。

最後に、茅ヶ崎市はグローバル教育に対して理解が深く、茅ヶ崎市国際交流協会の皆さまをはじめ多くの方々に本校の教育活動をサポートしていただき、心より感謝申し上げます。本校といたしましても、地域の発展のために微力ながら貢献することができれば幸いです。

## Ⅱ. グローバル教育に関わる沿革

1975年(昭和50年)	開校
1977年(昭和52年)	文部省帰国子女教育研究協力校に指定される
1984年(昭和59年)	県海外帰国生徒特別募集校に指定される
1988年(昭和63年)	県外国人留学生受入れ推進校に指定される
1991年(平成3年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校訪問実施 教員2名、生徒3名 姉妹校提携
1992年(平成4年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校来校(1週間) 教員2名、生徒4名
1993年(平成5年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校訪問実施(11日間)
1994年(平成6年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校来校(2週間)
1998年(平成10年)	3月 米メリーランド州J.F.ケネディー高校訪問実施 教員1名、生徒5名 姉妹校提携
2000年(平成12年)	7月 フランス人大学生来校(1日) 7名 11月 中国の高校の日本語教師2名来校し一日体験
2001年(平成13年)	7月 フランス人大学生来校(1日)
2002年(平成14年)	7月 韓国ソウル大学校師範大学附設高等学校来校(教員3名、生徒40名) 7月 フランス人大学生来校 8名 10月 韓国修学旅行実施(27期生)
2003年(平成15年)	7月 フランス人大学生来校(1日) 10名
2004年(平成16年)	県国際・英語教育活動実践推進拠点校に指定される 7月 フランス大学生来校(1日) 11名 7月 英国チャタムグラマースクール来校(3日間) 教員2名、生徒19名
2005年(平成17年)	7月 フランス大学生来校(1日) 9名 10月 英国チャタムグラマースクール来校(3日間) 教員3名 生徒27名 11月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施(30期生)
2006年(平成18年)	7月 フランス大学生来校(1日) 7名 10月 英国チャタムグラマースクール来校(3日間) 教員2名、生徒12名 10月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施(31期生) 11月 県派遣生徒として韓国、中国、アメリカ(メリーランド州)へそれぞれ1名ずつ生徒派遣
2007年(平成19年)	7月 第一回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒20名 県学力向上推進国際・英語教育拠点校に指定される 7月 フランス大学生来校(1日) 11名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(3日間) 教員2名、生徒10名 10月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施(32期生)
2008年(平成20年)	7月 県派遣事業として、マレーシアのペナン州へ3名の生徒派遣 7月 第二回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒16名 7月 フランス大学生来校(1日) 9名 10月 マレーシア修学旅行実施(33期生) 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(3日間) 教員3名 生徒16名 12月 県派遣事業として中国へ1名の生徒派遣
2009年(平成21年)	3月 第三回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒16名 7月 フランス大学生来校(1日) 6名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(3日間) 教員2名 生徒8名
2010年(平成22年)	3月 第四回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒12名 県教育力向上推進事業における教育推進校(国際教育)に指定される 7月 ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)来校(5日間) 教員2名 生徒8名 フランス大学生来校(1日) 8名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 教員2名 生徒14名
2011年(平成23年)	3月 第五回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒12名 7月 フランス大学生来校(1日) 4名 9月 第一回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)訪問実施 教員2名 生徒20名 第一回ニュージーランド交流校(ラザフォードハイスクール)訪問 教員2名 生徒18名 12月 AFS 東アジア青少年大交流計画プログラム生受け入れ 教員1名 生徒11名
2012年(平成24年)	3月 第六回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒12名 7月 フランス大学生来校(1日) 6名 8月 第二回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)訪問実施 教員2名 生徒19名 第二回ニュージーランド交流校(ファンガバラオア・カレッジ)訪問実施 教員2名 生徒20名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(1日) 教員2名 生徒8名
2013年(平成25年)	第七回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒12名 7月 フランス大学生来校(1日) 6名



2014年(平成26年)	8月	第三回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)訪問実施	教員2名	生徒12名
		第三回ニュージーランド交流校(ファンガパラオア・カレッジ)訪問	教員2名	生徒24名
	10月	英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(1日)	教員3名	生徒25名
	3月	第八回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施	教員2名	生徒12名
	7月	フランス大学生来校(1日)	5名	
2015年(平成27年)		ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)来校(5日間)	教員2名	生徒8名
	8月	第四回ニュージーランド交流校(オネハンガ・ハイスクール)訪問実施	教員2名	生徒20名
	9月	第四回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)訪問実施	教員2名	生徒12名
	10月	英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(1日)	教員2名	生徒8名
	3月	第九回英国交流校(オークアカデミー)訪問実施	教員2名	生徒20名
2016年(平成28年)	7月	フランス大学生来校(1日)	9名	
	8月	第五回ニュージーランド交流校(メルヴィル・ハイスクール)訪問実施	教員2名	生徒20名
	9月	第五回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)訪問	教員2名	生徒12名
	11月	オーストラリア大学生来校(1日)	8名	
	3月	第十回英国交流校(ウィンチカムスクール)訪問実施	教員2名	生徒20名
2017年(平成29年)	7月	フランス大学生来校(1日)	10名	
	8月	第六回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリーンデ)訪問実施	教員2名	生徒12名
	11月	オーストラリア大学生来校(1日)	8名	
	3月	第十一回英国交流校(ウィンチカム・スクール)訪問実施	教員2名	生徒20名
	7月	フランス大学生来校(1日)	8名	
2018年(平成30年)	8月	第七回ドイツ交流校(ザルツマン・シュール)訪問実施	教員2名	生徒12名
	9月	英国交流校(ウィンチカム・スクール)来校(5日)	教員3名	生徒19名
	11月	オーストラリア大学生来校(1日)	8名	
	3月	第十二回英国交流校(ウィンチカム・スクール)訪問実施	教員2名	生徒12名
	7月	フランス大学生来校(1日)	7名	
2019年(令和元年)	8月	第六回ニュージーランド交流校(アルフリストン・カレッジ)訪問実施	教員2名	生徒20名
	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シュール)来校(5日)	教員2名	生徒11名
	3月	第十三回英国交流校(ウィンチカム・スクール)訪問実施	教員2名	生徒20名
	7月	フランス大学生来校(1日)	3名	
	8月	第八回ドイツ交流校(ザルツマン・シュール)訪問実施	教員2名	生徒12名
2020年(令和2年)	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シュール)来校(8日)	教員2名	生徒12名
	3月	英国交流校訪問	中止	
	7月	フランス大学生来校	中止	
	8月	ドイツ交流校訪問	中止	
	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シュール)オンライン交流		
2021年(令和3年)	12月	海外勤務の卒業生によるオンライン授業		
	12月	Tsurumine Speech Contest		
	3月	英国交流校訪問	中止	
	7月	フランス大学生来校	中止	
	8月	ニュージーランド交流校訪問	中止	
2022年(令和4年)	12月	海外勤務の卒業生によるオンライン授業		
	12月	Tsurumine Speech Contest		
	3月	英国交流校訪問	中止	
	3月	ワールドスポーツフェスティバル		
	7月	フランス大学生来校	中止	
2023年(令和5年)	8月	ドイツ交流校訪問	中止	
	12月	ドイツ交流校とオンライン交流会		
	12月	Tsurumine Speech Contest		
	2月	ドイツ交流校とオンライン交流会		
	3月	英国交流校訪問	中止	
2024年(令和6年)	3月	ワールドスポーツフェスティバル		
	7月	フランス大学生来校		
	8月	ニュージーランド交流校訪問(ラザフォード・カレッジ)訪問実施	教員2名	生徒20名
	9月	ドイツ交流校(ザルツマン・シュール)来校	教員2名	生徒12名
	11月	ドイツ交流校とオンライン交流会		

### Ⅲ. グローバル教育を支えているもの

#### ■ 国際交流委員会

生徒会の一委員会として、毎年各クラスから代表を選出し、国際交流事業の補助に当たる。委員は毎年訪れる短期・長期の留学生のサポート、送別会などの企画運営を行い、また、外国からの訪問団に対する全校による歓迎会の実施運営の中心となる。文化祭では、交流事業の紹介をした。



#### ■ 第1回ワールドスポーツフェスティバル (2022年3月実施)

##### ● 企画内容

グローバル教育推進のひとつとして、諸外国で行われているスポーツを体験することで、異文化に対する興味・関心を高めることが目的であった。また、当イベントを通じて運動の楽しさや喜びを体験し、運動に親しみを持ち仲間との交流を深めながら主体性や協調性を育み、今後の学校生活に生かすことを目的として企画された。

##### ● 種目

- ・アルティメット (アメリカ)



アルティメットとは英語で「究極」という意味であり、フライングディスク競技の中で走る・投げる・跳ぶといった様々な能力が要求され、名前の通り究極のスポーツであるということから名付けられた。

参考：アルティメット - Wikipedia

- ・キンボール (カナダ)



キンボールの「キン」は、英語の「キネシシス /kinesthesia」=「運動感覚/感性」の略語。運動神経を磨く・競うような記録主体の競技とは異なり、感性の創出=「励まし/助け合い/感動の共有や協調性を高める」ことを大切にしているスポーツです。

参考：anabukids.com

・モルック (スウェーデン)



モルックと呼ばれる木製の棒を投げて、スキットルと呼ばれるピンを倒し点数を競うというシンプルなスポーツです。大人も子どもと一緒にモルックを楽しめます。

参考：最近話題のモルックってどんなスポーツ？道具やルールを解説 - まっぷるトラベルガイド (mapple.net)

・ボッチャ (イタリア)



ボッチャ (伊: Boccia) は、障害者スポーツの一つである。当初は脳性麻痺などにより運動能力に障害がある競技者向けに考案されたが、現在は運動能力に影響を与える他の重度の障害を持つ選手もプレーしている。

参考：ボッチャ - Wikipedia

・競技かるた (日本)



競技かるたとは「小倉百人一首」のかるたの札を使う、老若男女が楽しめるスポーツです。

参考：全日本かるた協会 (karuta.or.jp)

国際交流委員委員長のコメント (抜粋)

当日の盛り上がりを見てとてもうれしかったです。世界情勢が深刻化している現在、多文化に触れることができる、この大会をきっかけに、少しでも世界について考え理解を深めて欲しいと思っています。ワールドスポーツフェスティバルが伝統となることを願っています。

国際交流委員副委員長のコメント (抜粋)

皆さんが楽しんで競技に取り組んでいる姿を見て、達成感とやりがいを感じることができました。この行事が恒例行事になると嬉しいです。第1回ワールドスポーツフェスティバル副委員長を務めることができ、光栄に思います。最後に、世界平和とコロナの終息を心から願っています。

■鶴嶺祭での国際交流委員会による発表

海外のお菓子の販売（2022年9月）

●企画内容

グローバル教育推進の一つとして、諸外国で販売されているお菓子を販売した。実際に口にすることで、異文化に対する興味・関心を高めてもらう狙いがある。

●販売した各国の様々なお菓子



調べ学習の展示（2020年9月）

●発表テーマ：『国内での国際交流』

●1年生：各クラスで1枚ポスターを作成する。


2年生：2クラス合同で動画を作成する。

●内容

①海外で暮らしていた人、海外に留学に行ったことがある人、海外出身の人にインタビュー

②インタビューした人が行っていた国の情報（国名、国旗、地理情報、有名な場所、日本との関わり など）

1年生は、ポスターを作成して展示をした。帰国生にインタビューしたり、自分の周りにいる大人に話を聞いてパソコンや写真等を使用してポスターを作成した。



言語: 英語  
首都: シドニー  
人口: 約6886万人

タイが親日国家であったり、日本の企業が沢山進出している為、日本人に優しく、行きやすい国である!! 赤道に日本より近いから暑い。9月の降水量が1番多い!!

4年間タイへ行った高生に話を聞いたら、

「日本より物価が安くて、日本人にも優しくとても住みやすかった。日本よりは治安が少し悪いので、ガードマンらしき人が居た。ずっと半袖で暮らしてきたから、日本に帰ってきた時寒すぎてびっくりした。」

と話していました。

1年生

**AUSTRALIA**

Basic information

- 面積 → 769万km<sup>2</sup> → 日本と同じ位
- 人口 → 2,199万人
- 首都 → シドニー
- 言語 → 英語
- 日本との関係 → 日本との関係は、第二次世界大戦後、日本と友好関係を築いた。日本からの移民も増加した。日本と関係が深くなった。
- 9月1日はオーストラリアの日
- 9月1日はオーストラリアの日

Happy event

A fun event

Food

Scary event

Happily

1年生



## 生徒のコメント (抜粋)

- ・バスの運転手さんの気分でバスが止まるのは日本ではないことだと思いました。オーストラリアの自然がすごくきれいなので見てみたいです。(オーストラリアについて調べた生徒より)

2年生は、鶴嶺高校の先生やALTの方々にインタビューを行い、その動画を作成した。内容としては、先生方が行ったことのある地域についてインタビューをしたり、ALTの先生には「アフリカの中で有名な場所はどこですか」「日本の高校生はアフリカに行った方がいいと思いますか」と英語で伺い、答えていただいた。



コロナ禍により、実際に海外へ足を運ばない分、身近にいる人に海外の様子を聞くことで、いつか海外に行かれるようになった際のイメージを膨らませるきっかけとなった。また、英語学習の大切さを改めて実感し、意欲向上に繋がったという生徒もいた。

## ※文化祭での展示の様子



## ■ 外国語指導助手との交流

本校には現在 PFT が 1 名、ALT が 1 名、合計週 4 日講師として来校し、1 年の「英語コミュニケーション I」を中心に英語の授業アシスタントとしてオーラル面での指導を行っている。授業以外にも、英語スピーチコンテスト参加生徒の指導、また海外交流校訪問参加生徒に対する事前英語研修における指導等においても支援をお願いしている。このように、本校における国際理解教育の一翼を担っていただいていた。こういったネイティブの ALT はそれぞれの授業や、その他の活動において何よりも生徒と直にふれあうことを通して、異文化理解に関して生徒に大きな刺激を与えていることは間違いない。

本年度は非常勤講師の Jack Spicer 先生、外国語指導助手の Jenelyn 先生 2 名が通年の授業に参加してくれた。先生方は経験も豊富で様々な場面で国際色豊かな授業を展開してくれた。

Jenelyn 先生は School Uniform を扱った授業でスライドを用い、QA を交えての説明の後、生徒たち主体のグループワークなどをコーディネートしてくれた。



### School Uniforms around the World



## IV. グローバル教育に関わる取組

### A. 海外帰国生

本校は創立2年後の1977年に文部省（現・文部科学省）の帰国子女教育研究指定校に指定され、1984年に県の海外帰国生徒特別募集校に指定されて以来、国際教育に関わる取組を行ってきた。その取組の一つが取り出し授業であり、帰国生に対して特別な教育を行っている。最近は欧米だけではなくアジア諸国など、様々な国からの帰国生も多くなり、その担っているバックグラウンドもさまざまである。彼らもまた、国際理解という面で一般生徒に与える刺激は大きいといえる。発想や自己表現の仕方、そして何よりもその語学力などが、仲間として暮らす中で、一般の生徒に大きな影響を及ぼしている。また、外国からの訪問団への歓迎会では、校長挨拶の通訳をつとめるなどの仕事も引き受けている。



《帰国生の声》

#### 47期生 マクドネル ジェイムズ

My Journey at Tsurumine

3年4組31番 マクドネル ジェイムズ

I moved to Japan two months before my first year of high school, after six years of living in The United States. Spending all of my teenage years up to that point in the US, my cognitive development and mindset was closer to that of an American. As most of you probably know, the Japanese mindset and way of doing things are completely different to that of an American. I'm not here to claim that there is a "better one" of the two, rather share my adjustment and some of my successes and regrets during that time. Take this information with a grain of salt, and if you find yourself or someone you know in the same situation as I did, maybe you can help them and/or yourself.

I came to Japan excited about the whole aura and aesthetic that it holds. It didn't disappoint as my eyes have laid on beautiful landscapes, dazzling festivals, and delicious cuisines that keep draining my bank account to this day (I'm at a cafe writing this as we speak). But as we all know, life isn't that easy and you have to watch for the right hook that it throws sometimes. For me it came in the form of high school and it caught me square in the jaw. I was illiterate and had trouble forming a coherent sentence (trouble is an understatement). Passing my classes seemed like an impossible task, but what got to me was the collapse of my social life.

My head was filled with stereotypes that Japanese people are shy, conservative, and prefer not to be associated with foreigners. I went into high school with this false pretense, and it worsened as I failed to communicate with classmates with what little language ability I had. My confidence plummeted and I stopped trying to make friends at school. I spent the rest of my first year isolated with my earbuds in, making me unapproachable.

I joined the baseball team looking for a familiar place as I had played baseball in the US. The best decision I made. I spent more time with my teammates than anyone else during high school and it forced me to be social. My Japanese was slowly getting better and my confidence improved. I gave my social life a second shot at the beginning of my second year and before I knew it I had made a small group of friends. This trend has continued and I feel like I have synthesized my Japanese and American side, making me the person I am today.

It's a scary feeling to be in a completely different environment, but the most blissful experiences are on the other side of fear. The only way your Japanese is going to get better is if you use it. Even if you have little language ability, if you don't throw in the towel and try, you'll make friends. And if socializing isn't a strong suit of yours to begin with, join a club or sports team where it'll happen on its own. Whatever you do, don't do what I did in my first year. When it comes to academics, Japan is a little behind in the aspect of supporting foreign/ returnee students compared to other countries. But Japanese teachers carry a sense of pride for what they do and they have supported me every step of the way.

The Japanese people are the nicest and most patient people you'll ever meet. The outdated stereotypes don't apply to the new generation where they're eager to learn about different cultures. Talk to them just like you would talk to a friend from your home country. The effects of kindness and hard work don't change no matter what country you're in; be kind, work hard, and things will work out.



## B. 留学生

本校には毎年、1, 2名の長期留学生在籍する。また、12月から翌年2月頃まで毎年受け入れているオーストラリアからの留学生、さらには不定期に様々な団体からの要請で受け入れている留学生在籍している。こういった留学生在校生に与える影響は大きい。彼らは異文化を担う者として、さらには同年代の仲間として、また、日本語を一生懸命身につけようと努力する者として、様々なインパクトを生徒たちに与えてくれる。とりわけ長期留学生たちの日本語の上達の早さには、教員・生徒ともども驚かされることが多い。そして、その多くが日本独特の体育祭や部活動等を楽しみながら、日本の高校生活を満喫する。残念ながら今年度は世界的パンデミックの影響ですべての留学事業が中止となった。

### 《留学生の声》

《留学生の声》

サドリア アーリア (ニュージーランド) 2023.9~2024.1

At the start of 2022, I submitted an application to a Japanese student exchange program. Then, August 18th of the same year, I received an acceptance letter. When I received that letter, I never thought that it was actually real. After 14 months of waiting and a 13 hour flight, I finally arrived in Japan.

The first two days spent in Japan felt anything but real. For me, this was a big commitment because it was my first time overseas, so it felt like a dream. Before I knew it, I was being introduced to my host school, Tsurumine Senior High School. I remember introducing myself to the teachers, the international student exchange teachers, and most importantly, my homeroom teacher and my class: Class 7 of 1st years (1年7組). When I was introducing myself to my class, it was a very hot day, so they had the fan on. Because of the fan, my hair was going crazy as I was introducing myself. I was very embarrassed as I stood in front of everyone, but after the introduction, they were all very kind to me. A vivid memory for me on that day was when my homeroom teacher made all the students stand up, face me, and introduce themselves, one by one. Most of them were too fast to understand, so it is a very funny memory for me.

After the first few days, I slowly got used to the school life I would be living in for the next 5 months. During these days, I met my friends who were the kindest to me, making me feel comfortable. Because of my friends, I felt like I could easily get used to this life, making this a second home, even though I was 13 hours away from my real home. The one thing I wished I would have done was experience being a manager of a club, but I never asked as I was still shy. I regret not opening myself to new experiences in school, but I am proud of trying. If I ever get the chance, I would love to be a manager of a club.

The days and experiences I've had in Japan would be one I would never forget. My teachers, my friends and the kindness will be something I will always be thankful for. The 5 months of my exchange in Tsurumine Senior High School was, without a doubt, a life changing experience. Thanks to everyone for the learning experience, the friends I made and the laughs. I have learned so much on the trip.

Until next time I come to Japan, goodbye!

Alyia Sadlier

2022年の初めに、私は日本への交換留学プログラムに応募しました。また、同年8月18日に合格通知を受け取

りました。受け取った時は本物とは思えませんでした。そして14か月、飛行機で13時間乗ってついに羽田空港に到着しました。

### 『2023年9月1日～10日』

日本で過ごした最初の2日間は現実とはかけ離れたものでした。初めての海外生活は夢のようだったので、これは私にとって、重要な決断でした。気が付けば、ホスト学校である鶴嶺高等学校です。学校の先生方、留学生交換の先生方、そして何よりも私のホームルームの先生とクラスの皆さんに自己紹介をしたことを覚えています。私のクラスは1年7組でした。ホームルームの先生は私にとってこれ以上ないくらい優しい先生だったので感謝しています。クラスで自己紹介をしているときは暑い日だったので、彼らは扇風機をつけていました。自己紹介の時は扇風機をつけていたので髪がボサボサになってしまいました。みんなの前に立つのはとても恥ずかしくて面白かったです。私にとって鮮明な思い出は、ホームルームの先生が生徒全員を起立させ、私に向かい、一人ずつ自己紹介をさせた時のことです。彼らのほとんどは早口で話したので、分かりませんでした。この思い出はとても面白かったです。

### 『友達』

最初の数日の後、私はその後5か月間滞在する学校にゆっくりと慣れました。その頃、私にとっても優しく接してくれる友人たちに出会い、歓迎されていると感じました。友達のおかげで、日本の生活に早く慣れることができましたように感じましたから、ニュージーランドの家から13時間離れていたにもかかわらず、快適に感じました。やっておけばよかったと思うことのひとつは、クラブのマネージャーになったことです。でも恥ずかしくて聞けなかったことを後悔しています。また機会があったらクラブマネージャーを経験してみたいです！

私にとって日本で過ごした日々と経験は忘れられないものとなるでしょう。私は先生や友達にいつも感謝し、私に見せてもらった優しさにはこれからも感謝し続けるでしょう。鶴嶺高等学校での5か月間の交換プログラムは間違いなく人生を変える経験でした。学習体験、その過程でできた友達、そして笑わせてくれた皆さんに感謝します。この交流から多くのことを学びました。本当にありがとうございました。

次に日本に来る時まで、さようなら。

サドリア アーリア

## スカイラー（ニューージーランド）2023. 9～2024. 1

My first month in Japan When I first started school, I was too shy to talk to many people or hangout, so I didn't make many friends until the end of my first month in Japan. I didn't do much over Golden Week, although I did go to a festival with my first host family. It took me two hours to travel to school during my second month in Japan because I requested to change host families. I was placed with a temporary host family in Chofu, Tokyo.

I moved again in my third month since my second host family was too far away. I had to travel around an hour and twenty minutes to get to school because my third host family was in Yokohama. Because of their job, I was only able to stay with this host family for two months. My school held the sports festival in June. The festival was great, but the weather was too hot. We played games during the festival, and then everyone got into their Yukatas and started dancing. My class enjoyed seeing fireworks at Chigasaki Beach after the event.

During my summer break, I stayed with my fourth host family in Saitama, but it took me two and a half hours to get to school from their house since it was too far. My summer break in Japan was not very enjoyable. I traveled to and from school and my host family's house for a total of five hours a day, so I was really exhausted when I got to the tennis club at my school. I was often too far away to play with my friends. I had to spend a large portion of my summer alone because my host family was preoccupied at work. Shortly before summer break finished I moved to a host family in Fujisawa.

My school hosted a cultural festival at my school soon after summer break, which was a lot of fun. My class set up a casino cafe where we had sodas and juices and played games. We played games, ate food prepared by other students, and visited other classrooms to observe what they were doing for the festival. In late September, my class traveled to Hokkaido. We traveled to the countryside, played games, visited a museum, and each person got to choose an activity to do. I decided to make candles. After the two days, we traveled to a city close to Sapporo, where we went on walks, ate ice cream and food, and visited a museum. After that, we spent our final night in Sapporo. The next day, everyone had some free time to tour the city, and we all gathered at the airport to go home.

I've been spending a lot of time with my friends and the host family during my final month in Japan. I had a great time in Japan and hope to return.

日本での最初の 1 ヶ月 学校に通い始めたばかりの頃は、恥ずかしがり屋であり人と話したり遊んだりすることができなかったので、月末になるまであまり友達ができませんでした。ゴールデンウィークには、最初のホストファミリーと一緒にお祭りに行きましたが、あまり何もませんでした。留学 2 ヶ月目は、ホストファミリーの変更を希望したため、通学に 2 時間かかりました。私は東京の調布にある一時的なホストファミリーの家に預けられました。

2 軒目のホストファミリーが遠かったので、3 ヶ月目にまた引っ越しました。3 軒目のホストファミリーは横浜にあったので、通学に 1 時間 20 分ほどかかりました。ホストファミリーの仕事の都合で、このホストファミリーとは 2 ヶ月しか一緒にいらませんでした。私の学校では 6 月に体育祭がありました。体育祭は素晴らしかったのですが、天気が暑すぎました。体育祭ではゲームをした後、みんな浴衣を着て踊り始めました。体育祭の後、私のクラスは茅ヶ崎海岸で花火を見ました。

夏休みの間、私は埼玉の 4 番目のホストファミリーの家に滞在しましたが、ホストファミリーの家から学校ま

で遠かったので、2 時間半かかりました。日本での夏休みはあまり楽しいものではありませんでした。学校とホストファミリーの家を 1 日 5 時間も往復したので、学校のテニスクラブに着いたときは本当にくたくたでした。友達と遊ぶにも遠すぎる事が多くありました。ホストファミリーが仕事に夢中だったので、夏の大部分を一人で過ごさなければなりません。夏休みが終わる少し前に、私は藤沢のホストファミリーのところに移りました。

学校では、夏休みに入ってすぐに文化祭が開催され、とても楽しかったです。私のクラスではカジノカフェを作り、ソーダやジュースを飲んだり、ゲームをしたりしました。ゲームをしたり、他の生徒が作った料理を食べたり、他の教室を訪れて文化祭でやっていることを見学したりしました。9

月下旬に、私のクラスは北海道へ旅行しました。田舎に行き、ゲームをし、博物館を訪れ、一人一人がアクティビティを選びました。私はキャンドルを作ることにしました。2 日間の後、私たちは札幌に近い街に行き、そこで散歩をしたり、アイスクリームや食べ物を食べたり、博物館を訪れたりしました。その後、札幌で最後の夜を過ごしました。翌日は自由行動で市内を観光し、空港に集合して帰路につきました。

日本での最後の 1 ヶ月間、友人やホストファミリーと多くの時間を過ごしました。日本では素晴らしい時間を過ごすことができたので、また来たいと思います。



4 月 社会科見学 横浜にて



6 月 円蔵中学校で授業に参加

エイダン・ターピン（オーストラリア） 2018.9～2019.1 在籍

県高等学校国際教育研究協議会主催の第48回国際理解発表大会で最優秀県知事賞を受賞しました。

## 「私の異文化理解」

こんにちは。今年四月にオーストラリアから来ました留学生のエイダン・ターピンです。今日は日本に来てから異文化理解について考えたことをお話します。

私は異文化理解には、二つの考え方があると思います。一つは自分の文化の考え方で他の文化を見ることです。もう一つは、人が何かをするのを知るだけでなく、深く見て、なぜそうするのかを理解することです。

私は日本に来たばかりのときは、日本の文化を表面的に見ることが多かったです。日本に来る前にオリエンテーションで、「留学生は必ずカルチャーショックを受けるから心の準備をして置くように」と注意を受けました。もちろん、私は「僕なら、絶対そういうことにはならないな」と自信がありました。でも、実際に来た時にはずっとオーストラリアの文化の考え方で日本を見続けていました。深く考えず、本当の理解をせずに色々なことを批判していました。

今は、その時の私が間違っていたと分かってきました。相手の行動の理由を理解してみると、日本とオーストラリアの文化は違う状況から生まれただけと分かりました。どこの文化でも、「どっちのほうがいい」ということではなくて、ただ違っているだけです。みんなも、相手を責めたり、怒ったりする前に、その相手の行動の理由を理解してみたいと思います。

私がおもしろいと思う異文化誤解の例えは、オーストラリアと日本の、相手のクリスマスのイメージです。日本ではオーストラリアにサンタさんがサーフィンで来ると思われていますが、ほとんどのオーストラリア人にそういうイメージはありません。逆に、私は日本に来る前に、雑誌で「日本ではみんなクリスマスにケンタッキーを食べる!」と読みました。テレビや新聞などでの異文化についての情報だけを真実のものと思うのは単純すぎます。

私たちは他の文化からたくさん学べます。そして、今の世界の「地球温暖化」とか「世界的な飢餓の問題」などを解決するために、世界中で国際理解と協力がとても必要だと思います。

本当の理解は簡単にできることではありません。私も、全然完璧ではありません。でも、頑張り続けています。だから、どんどん日本が理解できるようになっていて、今は日本が大好きになってきました。

誰でも完璧ではありません。どんなに国際理解ができていても、みんな考え方をまだ進歩できます。

私は、皆さんが時には自分の本来の考え方に疑問を持って、難しくても表面的に考えないでほしいと思います。一つのことを見ただけで一般化をしないでほしいです。みんなで頑張って、違う視点から見て、本当の異文化理解をもっとできるようになりましょう!

これで終わります。ご清聴ありがとうございました。





## C. 様々な団体の受け入れ

### ■アメリカ・メリーランド州の姉妹校との交流

1991年～2003年

1991年11月に、アメリカ・メリーランド州のマグダナー・ハイスクールと正式に姉妹校提携を結んだ。生徒3名、職員2名が同校を訪問し、姉妹校調印式、授業等に参加し親善を深めた。2003年3月に教員2名、生徒10名が本校を訪問したいとの申し出があったが、イラク情勢の緊迫化、SARSの影響によって見送りとなった。

### ■韓国高校生との交流

2001年～2002年

2001年1月12日、韓国仁川市より来日した6名の高校生が本校を訪れ、2002年7月にはソウル大学校師範大学附設高等学校より教員3名、生徒40名が来校し、本校生徒の家にホームステイした。その年の11月に海外修学旅行として韓国を訪れ、ソウル師範大学附設高等学校を訪問し、相手校生徒が本校生徒を町に案内するなどして交流した。その翌年も韓国修学旅行が計画されたが、SARSの流行により、国内旅行への変更を余儀なくされた。

### ■AFS 東南アジア・オセアニアから 11名の高校生との交流

2011年

留学生の交流団体であるAFSの依頼を受けて、12月13日(火)と14日(水)の二日間、オーストラリア・ニュージーランドを含む東アジアの高校生11名、引率教員1名を受け入れて交流した。



### ■オーストラリア大学生との交流

2015～17年

茅ヶ崎市国際交流協会から依頼を受け、毎年11月に約10名を本校に受け入れている。その際は英語科の授業やLHR等でディスカッションを行っている。昼休みには1学年の教室に一人ずつ配置し、国際交流委員を中心に本校生徒と交流した。



## ■フランス大学生との交流

2000年～

茅ヶ崎市国際交流協会が過去約20年にわたり、毎年7月に日本語を学ぶフランス大学生を10人程度市内にホームステイさせながら、様々な体験交流を行っている。2000年7月14日に7名の電気大学の学生が本校を訪問し、一日高校体験をしたのが本校との交流の始まりである。それ以降、毎年7月にフランス大学生による本校訪問が続いているが、2003年度からは国際交流委員会主催の全校をあげての歓迎会を開催し、相互交流を含めた行事として定着している。2023年度は8名が来校して全校挙げての歓迎会や英語の授業に参加し、生徒との昼食交流会のあと、剣道部の活動に参加した。

### 授業参加



### 歓迎会



昼食会



剣道部 1 日体験





## D. グローバル教育の実践

### ■ザルツマンシュレー高校とのオンライン交流

鶴嶺高校の交流校であるザルツマンシュレー高校と、昨年度に引き続きオンラインでの交流を行いました。

11月15日、オンラインミーティングソフトを利用し、お互いにプレゼンを発表しました。その後質問タイムを設け、活発な意見交換が行われました。

ドイツの生徒は、「ドイツと日本の教育制度の違い」についてプレゼンしてくれました。



鶴嶺高校の生徒は、「日本に来たら行くべき場所と食べるべきもの」「日本の文化の紹介」についての二つのプレゼンを行いました。特に、富士山の写真やお寿司の写真をスライドに写した際には興味深く見てくれました。

ドイツの生徒は日本語で、鶴嶺高校の生徒は英語と日本語両方を使ってプレゼンを行い、お互いの理解を深めていました。



また、「クリスマスは誰と過ごしますか」「お寿司屋さんはドイツにありますか」など、プレゼン内容以外にも様々な質問がありました。

こうして直接海外の同年代の学生と意見交換をするのは非常に貴重な経験であり、お互いにとって良い刺激となったことと思います。今後も活発に交流を続けていけたらと思います。

## ■校外国際交流企画 @地球市民かながわプラザ訪問

令和4年8月23日に希望者対象の校外国際交流企画として地球市民かながわプラザを訪問し、国際理解展示室などの見学と JICA 青年海外協力隊の海外ボランティアに参加された方のお話を伺いました。

国際理解展示室では、民族衣装の着用体験や世界の各地域の住居や生活の様子を見たり、ボードゲームを実際に遊んでみるなどして国際理解を深めることができました。

民族衣装の着用体験では、モンゴルやアラビア、ブータンなどの衣装をボランティアガイドの方に説明して頂きながら着ることができ、生活環境や気候の違いによって服装にも大きな差が出ていることに気づかされたようです。また、各国のボードゲームの体験では日本のゲームと似たところがある点に世界と日本のつながりを感じたようです。

国際平和展示室では世界の紛争や過去の戦争に関する展示を見学し、平和について考える機会になったようです。

企画実施日に地球市民かながわプラザの特別企画として世界各地のおもちゃの展示をしており、世界各地の子どもたちの生活の様子などを学ぶことができました。



## ■ 卒業生帰国生の話を聞き交流する会

2021年9月3日（金）、本校卒業生のクリンギンスミス真莉奈さん（第41期卒業生）と在学生の交流会がオンラインで開催されました。

クリンギンスミス真莉奈さんは高校1年の2学期、保護者の仕事を理由としてアメリカ合衆国ハワイ州より鶴嶺高校に編入しました。母が日本人であったが、本人はほとんど日本語が分からず大変苦勞しました。

在学中は、特に国語の授業が苦手な漢字や助詞の使い方に苦勞したことなどは、出席した生徒からも共感を得られました。

帰国生は授業や進路に悩んでいる生徒も多く、真莉奈さんがやさしく聞き出してくれました。逆に明確な進学希望を持っている生徒には帰国生ならではの学習方法を示してくれました。

感染状況拡大のため、オンラインで開催することになり緊張している生徒が多かったため、次回以降は対面での開催を追及したいと思います。



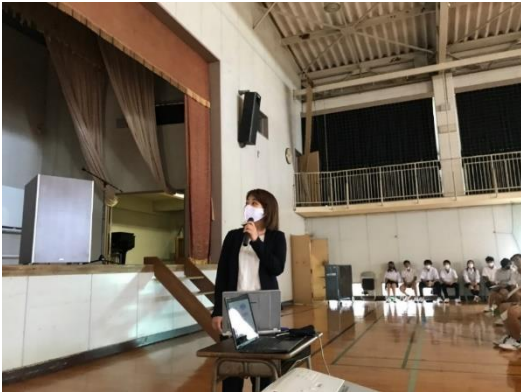


## ■大塚製薬と鶴嶺高校コンソーシアム

2020年9月18日(金)5,6限で大塚製薬と鶴嶺高校のコンソーシアムの発表会が行われた。大塚製薬からは健康や企業理念について講演をしていただいた。そして生徒側からは「総合的な探究の時間」で準備した「生活・社会」に関する諸問題についての考察をスライドを用いて発表した。そもそもコンソーシアム(Consortium:共同事業体)とは、2つ以上の個人、企業、団体、政府から成る団体を意味し、共同で何らかの目的に沿った活動を行い、共通の目標に向かって資源を蓄える目的で結成されたものである。

2019年に神奈川県教育委員会を通し大塚製薬との縁が始まった。

○大塚製薬、松浦氏によるプレゼンテーション。



様々な健康関連商品を通して社会に貢献している同社の開発コンセプト等をわかりやすく説明していただいた。かつて本校校舎がポカリスエットのCM撮影のロケに使われたとのことである。

(生徒の感想から)

- ・カロリーメイトは看護師さんの意見で作られたということに感動した。
- ・健康に対する一途な姿勢に感銘を受けた。
- ・固定観念に縛られない発想が大切であることを教えられた。
- ・将来、人の役に立つ仕事がしたいと思った。

○生徒による「生活・社会」に関する諸問題に関するプレゼンテーション。

1年10組吉田百花「高校生になった今、知っておくべきアンパンマンに込められた思い」



鶴嶺高校からはクラス代表10名がプレゼンテーションを行った。なかでも吉田さんのプレゼンテーションはアンパンマンを通して人間とはどうあるべきであるかという考察を力強く訴え観衆を魅了していた。「コロナに負けるな!」というメッセージで話を終えると万雷の拍手が沸き起こった。

(生徒の感想から) プレゼンテーションにおいて大切だと思うことを書いてください。

- ・冒頭に何を伝えたいかはっきり示すことが大事。
- ・タイトルにはインパクトが必要。
- ・体験談は強い。
- ・質問で始まるプレゼンは興味惹かれる。
- ・イラストや画像を活用したい。
- ・語りかけるように話されるとつい引き込まれる。
- ・やはり原稿は覚えないとダメ。
- ・ジェスチャーは大きめにしたい。
- ・目線を上げる!
- ・実際に自分がやったことはネットに勝るインパクトあり。

■特別公開授業 安河内哲也先生



2021年5月6日、本校体育館にて東進ハイスクール英語科講師の安河内哲也先生の出張講義が行われた。

今回の講演の目的は、新しい学年・クラスになったばかりの今、受験に向かう姿勢を今一度整え、英語の効果的な学び方を体感し学習意欲を高めていくことであった。具体的には、英語はリスニングを通じて耳から入ること、発音と書かれている意味をしっかりと意識して音読をするというアドバイスをいただいた。英語学習をするうえで効果的な音読方法として、「リピーティング」「オーバーラッピング」「シャドーイング」という3つの音読方法の話もあった。

最後に、「1日1時間、音読をしてほしい。無理ならば1分でもいいからやってほしい。」という言葉があった。今回の安河内先生の話をつまえて、生徒それぞれが、自身の学習方法を見つめなおし、今後の学習の取組への大きな刺激となった。

## ■英検面接対策特別授業

2022年6月27日放課後、5名の外国人講師をお招きして英検面接対策会が行われました。多くの鶴高生が参加し、合格を目指し熱心にスピーキング練習を行いました。



## ■ゆかた着付け教室 藤岡恵美先生

2023年6月1日、本校体育館にて和服の専門家であり元鶴嶺高校PTA会長の藤岡恵美先生をお招きしてゆかたの着付け教室が開催されました。



ゆかたの歴史についての講演を聞いた後、ゆかたの着付けの実地指導が行われました。体育祭のゆかたによるパフォーマンスを直前に控えた1年生は、真剣な面持ちで着付けに取り組んでいました。PTAのボランティアの皆さんも、多数駆け付けてくださり、中に入って、熱心に指導してくださいました。



## ■Tsurumine High School Speech Contest 2023 (1年生)

2023年12月21日(木)にTsurumine High School Speech Contest 2023(1年生)が行われた。「英語コミュニケーションI」の授業で全生徒が予選に参加した中から選ばれたファイナリスト20名が素晴らしいスピーチを披露した。テーマは"My Treasure"である。

### "My Treasure" Speech Finalists

Class	Name	Title
1-1	Mr. Riku Tenma	ZABUTON
1-1	Ms. Kotoha Yamamoto	Memories with my Family
1-2	Ms. Yuna Takahashi	My basketball uniform
1-2	Ms. Akari Naito	My Treasure
1-3	Mr. Arashi Inoue	My Collection
1-3	Mr. Kanato Mitsumata	My Pen
1-4	Ms. Habana Shimautchi	My Visit to the USA
1-4	Ms. Ami Taburi	Friendship
1-5	Ms. Takara Ebine	My Lovely Keychain
1-5	Ms. Mino Odagiri	Hot Springs
1-6	Mr. Kotaro Iijima	Friends
1-6	Mr. Hayato Shibuya	Air Jordan
1-7	Mr. Shigeo Kogure	My Shoes
1-7	Mr. Arata Hoshi	Blue Spring
1-8	Ms. Arisu Matsumoto	My Shoes
1-8	Ms. Hana Morita	Le Sucre
1-9	Ms. Arisa Sendoda	Uniform Number
1-9	Ms. Tenku Tanaka	Books are Friends
1-10	Mr. Rikuto Sasatsuki	My Favorite Pencil Case
1-10	Ms. Yume Nishiyama	My Dog

審査員の濱川学校長、亀岡副校長、ALTのジェニー先生、の3名による厳正な審査の結果、

1位はMs. Arisa SendodaのUniform Number、2位はMs. Takara EbineのMy Lovely Keychain、そして3位はMs. Ami TaburiのFriendshipでした。



ファイナリストのみなさん



スピーチの様子



授賞式



## ■Tsurumine High School Speech Contest 2023

2024年1月19日（金）に2学年対象の Tsurumine High School Speech Contest 2023 を実施した。テーマは“What We Can Do for the World”に設定した。本校の Global Studies（総合的な探究の時間）では2学年で国際理解を中心に探究学習を行っており、それに合わせて世界の諸問題や課題に対して自分たちがどんな行動を起こせるかということを考え、発信する練習を英語コミュニケーションⅡ及び論理・表現Ⅱの時間に行ってきた。発表用のスライドを作成してもらい、12月に各クラスで予選会を行い、生徒の投票によって選ばれた各クラス代表2名、合計20名がファイナリストとして今回のスピーチコンテストに参加した。冬休みだけでなく直前まで必死に練習した成果が当日の発表会で発揮され、20名それぞれが普段の英語学習で培ってきたものを堂々と披露し、例年以上にハイレベルなスピーチコンテストとなった。

### Speech Finalists

	Class	Name	Title
1	2-8	Touonnou Ayaka	What Can We Do to Achieve Gender Equality?
2	2-2	Fujiwara Rino	Reduce the Number of Suicides
3	2-7	Nakamura Naota	Gender Equality
4	2-1	Endo Ryujin Darwin	Hunger Problem
5	2-3	Sano Hinaka	Technological Unemployment
6	2-5	Hayashida Taisei	Final Disposal Sites for Garbage
7	2-9	Takahashi Yuki	Food Waste
8	2-6	Hamai Tomohiro	Facing Resource Scarcity
9	2-10	Kanda Ryo	What We Can Do for the Medical Disparity
10	2-4	Yonemoto Hiroto	Peace and Justice for All
11	2-10	Arai Koharu	What Can We Do to Protect Water?
12	2-9	Yamazaki Shiina	5.23 Million Tons
13	2-7	Horio Tsugumi	Life Below Water
14	2-8	Kondo Teppei	Food Loss
15	2-5	Tomii Haruna	Building Bridges
16	2-3	Yabuzaki Mahiro	Discrimination
17	2-2	Suzuki Yume	Energy
18	2-6	Chia Hiroki	Poverty
19	2-4	Hosoi Yuma	Global Warming
20	2-1	Uehara Mei	Child Poverty

Chairpersons: Azuma Momoka from 2-1, and Watanabe Kanon from 2-7

審査員の 校長、亀岡副校長、ALT のジェニー先生の3名による厳正な審査の結果、

1位はTomii Haruna の Building Bridges、2位はArai Koharu の What Can We Do to Protect Water?、3位はYabuzaki Mahiro の Discrimination が選ばれた。





## E. イギリスの学校との交流

### 【受入の記録】

2004年より2013年まで10年間、チャタム・グラマースクール・フォー・ボーイズ (Chatham Grammar School for Boys : CGSB) との交流が続いた。CGSBはロンドンの東南部ケント州のメドウェイ川東岸の町 Chatham にあり、チャールズ・ディケンズが出たことでも知られる、由緒ある公立校である。11歳から18歳までの生徒を擁し、11歳から16歳までは男子のみだが、16歳から18歳までは若干の女子を交えての共学である。2004年7月に初めてチャタムの生徒たちが来校した。また、本校からも、2007年~2014年の8回にわたり英国訪問が実施され、相互訪問の形となった。その後、先方の日本人担当者が帰国したため交流が途絶えた。

2015年はCGSBに代わり、ロンドン南西部ボーンマスのオークアカデミーを訪問した。

2016年にコッツウォルズ地方のウィンチカム・スクールを訪問したところ大変な歓迎を受け、相互交流が始まり、今年度末も含めて5回の訪問と1回の受入が実現した。

#### 第1回イギリス受入 チャタム・グラマースクール 2004年7月12日~14日

- 来校生徒： 男子15名 女子4名  
引率教員： 2名  
日程：12日 午後3時来校。ホームステイ先の家族と対面、歓迎式  
13日 1校時はホストのクラスの授業参加  
2校時 AV教室に学校紹介ビデオを見せながらオリエンテーション  
3,4校時 体育館にて、全校生徒による歓迎会 (国際交流委員会主催)  
5,6校時 ホスト生徒の授業参加  
14日 1~4校時に英語の授業を配置し、そこでそれぞれがプレゼンテーションを実施  
昼過ぎに中庭でお別れ会ののち見送り

#### 第2回イギリス英国受入 チャタム・グラマースクール 2005年10月25日~27日

- 来校生徒： 男子22名 女子5名 (うち3名が2年続けての来校)  
引率教員： 4名  
日程：25日 午後3時来校 ホームステイ先の家族と対面、歓迎式  
26日 1校時 ホストの授業参加  
2校時 AV教室でオリエンテーション  
3校時 ホストの授業に参加 \*ここまで45分短縮授業  
4校時 体育館にて全校歓迎会 (国際交流委員会主催)  
5,6校時 ホストの授業、書道等参加  
授業でプレゼンテーションを実施  
放課後、部活参加  
27日 1~3校時 ホストの授業参加・英語の授業におけるプレゼンテーションを実施  
4校時 アンケート記入、  
昼食後中庭でお別れ会、見送り



## 【事前学習の発表】

イギリスの伝統的な料理

43期生 篠原美音

### ① イングリッシュブレックファスト

イギリスの週末などのゆっくりした朝ごはんの定番です。主なイングリッシュブレックファストは、ソーセージ、ベーコン、目玉焼き、マッシュルーム、トマト、ビーンズ、そして食パンです。ソーセージは「ブラッドプディング」という豚肉と豚の血が入った日本とは異なったものであり、好みが分かれるそう。嫌いな人は、ハッシュドポテトを食べる家庭が多いそうです。

### ② フィッシュアンドチップス

これはイギリスの代表的なファーストフードであり、フィッシュは主にタラなどの白身魚を使っており、衣は小麦粉を卵、水、またはビールで溶いて揚げたものです。チップスは日本でいうフライドポテトのことで、ソルトとビネガーをかけて食べるのがイギリス流。とてもおいしく、レストランなどでは安く食べることができ、イギリス人にも大人気の食べ物です。

### ③ ハギス

スコットランドはイングランドとは違った食文化を持ち、中でもハギスはスコットランドで有名な食べ物です。ハギスは羊の内臓、玉ねぎ、ハーブなどを羊の胃袋に詰めて、煮る又は茹でて食べます。

### ④ ブリティッシュパイ

これはパイ生地の中にエール（ビールで煮たビーフシチュー）や豚ひき肉が入ったもので、古くからイギリスの家庭で親しまれている料理です。またパイというとお菓子やデザートをイメージしてしまいがちですが、イギリスのパイはランチやディナーでメインとして食べます。

### ⑤ アフタヌーンティー

イギリス人は一回の食事の量が少ない分を間食で補います。そのため、午後の3時～午後の6時にかけて間食を楽しむ習慣をアフタヌーンティーといいます。銀の3段のスタンドで出され、下からサンドイッチ、ペイストリー、(焼き菓子や生菓子)、スコーンの順で盛り付けられます。

・またイギリス人は紅茶が大好きで、1日に4～5杯ほどを飲むそうです。また、アフタヌーンティーのときには必ず紅茶も一緒に楽しむそうです。

・上記以外にも、日本にも馴染みのあるローストや、ビーフシチューはイギリスが発祥だそうです。

## 【訪問の記録】

### 第12回イギリス訪問 ウィンチカム・スクール 2019年3月22日～30日

22日（金曜日） 羽田空港～ヒースロー空港～ホテル

午前11:30羽田空港を出発し、12時間後の現地時間15:30にロンドン・ヒースロー空港に到着した。約1時間半並んだ入国審査の後、専用バスで空港近くの宿泊ホテルに向かう。



ヒースロー空港に到着

23日（土曜日） ロンドン市内観光 と入校式

午前中はロンドン市内観光、午後は大英博物館を見学し、ウィンチカムへ移動。入校式後、各自ホストファミリーの自宅へ移動する。



ロンドン市内にて

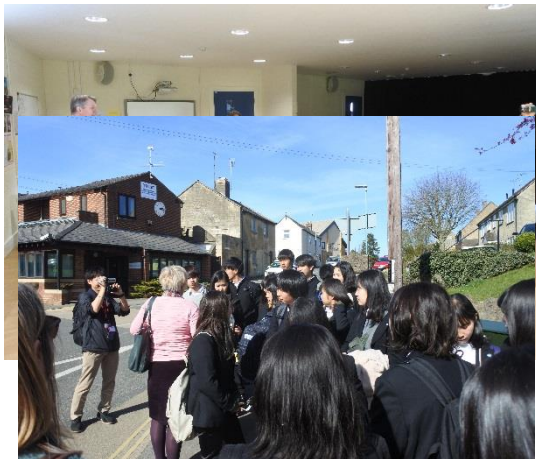


大英博物館にて

24日（日曜日） 終日ホストファミリーと過ごす。

25日（月曜日） ウィンチカムスクール訪問1日目

午前中2時間は、2グループに分かれて英語の特別授業を受ける。3・4時間目は、スクールバディと一緒にウィンチカムスクールの授業（スペイン語、地理、数学、調理実習など）に参加した。昼食後、英語の二人の先生も同行してウィンチカムを散策し、その後ウィンチカム生とディスカッションを行う。



ウィンチカム散策





26日（火曜日）ウィンチカムスクール訪問2日目

午前中2時間は、2グループに分かれて英語の特別授業を受ける。3校時目は、スクールバディによる校内見学を行い、4時間目はウィンチカムスクールの生徒と一緒に体育（サッカー、ネットボール）の授業に参加する。午後は、英語の先生と一緒に、専用バスでストラットフォードに向かい観光する。



バスハイク前



ストラットフォードのシェークスピアの生家の前

27日（水曜日）ウィンチカムスクール訪問3日目

午前中2時間は、2グループに分かれて英語の特別授業を受け、3・4時間目は本校生徒がウィンチカム生に日本文化を紹介する。昼食後、コッツウォルズの村（バイブリー・バートン）を観光する。





## 日本文化紹介

28日（木曜日）ウィンチカムスクール訪問4日目

午前中2時間は最後の英語の特別授業に参加し、3・4時間目はウィンチカムスクールの授業に参加する。

午後は閉講式を行い、担当の先生から、一人ひとりに修了証が渡される。午後4時～6時にさよならパーティを催す。



## 閉講式・さよならパーティの様子

29日（金曜日）30日（土曜日）

8時にホストファミリーと別れて、午前中はオックスフォード、午後はウィンザー城を観光する。その後空港に向かい、19時の飛行機で出国する。



オックスフォードにて



ウィンザー城にて

## 【現地校での日本文化のプレゼンテーション】

訪問先の交流校では、行先に関わらず、日本文化を英語で紹介している。事前学習でパワーポイントも含め、用意周到に準備している。以下、生徒の発表を掲載する。

タイトル : **Ninja & Karate**

発表者 : 44 期生 津山空斗 今井宏太郎 天城史穂 青木優汰 澁谷颯人

# 忍者 *ninja* Japanese soldier

## About Ninja



A ninja is a kind of spy

A “Shinobi” is another name for a ninja

A female ninja is called a “kunoichi”

Ninjas majorly existed from the Kamakura era to the Edo era

They have a lot of weapons

• For example



Kusarigama  
鎖鎌



Fukiya  
吹き矢

Shuriken



手裏剣

Hello everyone. I'll introduce Kanagawa which is where I'm from.

First, Kanagawa is one of Japan's prefectures. Then, where is Kanagawa? It is located in the center of the mainland of Japan. It consists of 13 towns, 19 cities, and 1 village.



Kanagawa is next to Tokyo, which is the capital of Japan. It is also next to Shizuoka, which has the highest mountain in Japan, Mt. Fuji. So, you can see Mt. Fuji from various places in Kanagawa.



Well, Let me compare Kent with Kanagawa. This chart shows Kent compared with Kanagawa. Kanagawa is about 2400 square kilometers in area. It is not very large. But the population is about 9072000. This is the second largest in Japan, the first being Tokyo. So, it is densely populated. As shown on the chart, Kanagawa is smaller than Kent but Kanagawa's population is five times as large as that of Kent. So the difference in population density between Kent and Kanagawa is big.

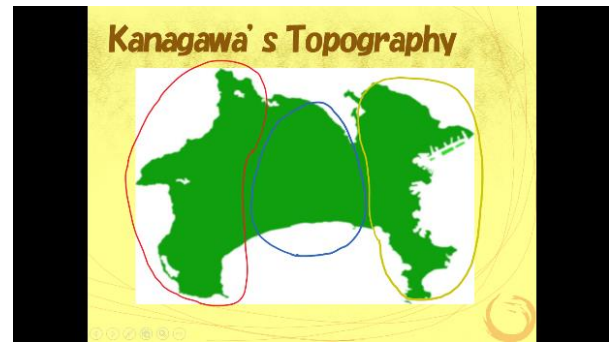
<b>Kent and Kanagawa</b>		
<i>Kent</i>		<i>Kanagawa</i>
3,736 square kilometers	area	2,400 square kilometers
about 1,634,500	population	about 9,072,000
437/km <sup>2</sup>	population density	3,760/km <sup>2</sup>
agriculture (Hops,Fruits...etc)	main industry	the chemical industry, agriculture and forestry

Prefectural capital is Yokohama. There is a harbor bay called Yokohama Port. It is famous for the arrival of the U.S. black ships, led by commander Perry, about 150 years ago.





Next, I'll introduce the topography of Kanagawa. Kanagawa is divided into three parts. Eastern region of hills, central region of flat terraces and lowlands, and a western region of mountainous and volcanic lands.



There is a large volcano called Hakone Volcano in the western region. The volcanic activity began about 650,000 years ago. We can still see the volcanic activity today. The hot springs in the surrounding area have led to the increase of many hot spring resorts. These places used to be popular for medical purpose in the old days. Nowadays many tourists visit them and enjoy the hot springs.



Next, I'll introduce Kamakura. Kamakura is also famous tourist destination in Kanagawa. There are 41 shrines and 119 temples in Kamakura. In Koutokuin Temple, there is a Great Buddha, which is 11.35m in height and the weight is 124 tons.



Also many people visit Kamakura to see hydrangeas in June and Autumn leaves in Autumn.

Next is about the climate. Kanagawa is warm and has a lot of rainfall. Temperature is low in high lands and high in low lands. It is chilly in spring. Summer is hot and humid. We have a cloudy and rainy period called the "rainy season" between May and July every year. Kanagawa is the region that is well under the influence of rainy season. It is also hot in autumn because Kanagawa's lingering summer heat is severe. But as winter draws near, it becomes cold. Winter is dry and cold. But we don't have much snow.



## 【訪問記】

43期生 伊東優衣

### Homestay that had a wonderful encounter

For me, the days I spent in the UK were real substantial and also very fun! At first, even though we arrived at Heathrow Airport after getting off the plane, I was confused because it didn't feel like we came to the UK all the way. I was able to feel it at last, sucking in the UK air after passing departure examination. At this time, I was so excited with many expectations on training trips. I've studied English hard because I'd like to communicate with foreigners in English. That is why my English is still developing. I want to use this opportunity for the improving of my English skill by gaining experiences. I took part in this trip with such ideas.

The best thing I had been looking forward to in this trip was home stay. The sightseeing by bus ended, on the way to Cheltenham where we're going to stay, anxiety began to fill my head. For example, "Can I communicate with my host family for sure?" "Can I enjoy my home stay with them?", and so on. But upon actually meeting them, surprisingly, I found myself standing with confidence. What I was worried about a few minutes ago seemed to disappear. Thinking of that now, I think feelings of excitement were stronger than anxiety in my home stay at that time. At the host family meeting, I met my host mother, Sam, who picked me up. In the car, I could talk to her a lot positively without feeling tension because she was very kind with a cute smile. Talking about my hobbies with each other, I enjoyed communicating with my host mother from the first day. So, I was very happy. When she commended me about my English, like "Your English is very good!", unexpectedly, I was excited to hear that! My host father, Mike also welcomed me kindly when we arrived at their house. Knowing that I love dogs, he talked about their favorite dogs, Molly and Dell a lot. I love his behavior to raise his eyebrows sometimes when he talks to me looking at my face.

Sam always cooked lunch and dinner for me. She is very good at cooking, so there was never day I didn't eat all of the food. After dinner, I often washed the dishes with Mike. Even in this case, our conversation was never interrupted. We talked about the event of the day, and laughed about a joke Sam was telling us. Also, they told me about their life in the UK. It was very fun! We relaxed in the living room together after finishing cleaning up the dishes. Sometimes, we spent the time to watch TV but most of the time was spent on conversation with each other. I was very happy because Sam and Mike always talked smiling at me about a lot of things and lent their ears to my poor English. I wanted to tell them more about Japan, but, as I had expected, I was dissatisfied with advanced preparation.

I should have prepared a huge amount. Thinking about that, I sometimes regret it but Sam and Mike told me about the nature and food of the UK and their family to delight me. So, I thoroughly enjoyed home stay by as many things as possible before leaving the UK. The thing I learned is this is the importance of knowing about my own country before learning about foreign cultures. To my surprise, Sam and Mike are familiar with their own country's culture. This is not because I'm a foreigner in England or because they're an elderly couple who have already raised three children in England. In other words, they're really



interested in the culture of their home country. I understood the importance of looking at their faces when they talked to me. Also, Mike goes to China sometimes for his job, so he told me a lot of the impressive things of China, for example, delicious food, buildings, and so on. It's not enough to about only one foreign culture, as a first step, I think that we need to be able to explain about the culture of our own country. By doing so, it became possible to learn other cultures more deeply. Thanks to Sam and Mike, I could notice something very important. I'm sincerely grateful to them. But I believe the most important thing is the attitude to try to communicate. Because both Sam and Mike were really kind to me, I could always feel positive and smile during my home stay. From now on, I'll love my home town more, and also love the surrounding people a lot, like them taking care of me very kindly. Then, I'd like to become stronger by mastering English now. Moreover, I hope to visit them again sometime once I become stronger.

## 【報告会】

交流校訪問に参加した生徒が、一般生徒に向けて2学年の「総合的な学習の時間」に、訪問した国の学校生活・家庭生活・見学の体験、または現地校で発表した「日本文化のプレゼンテーション」を披露している。以下は、生徒の発表したスライドの一部である。



ホストファミリーとの食事



学校生活（お昼）



名前を書いてプレゼント

## F. ドイツの学校との交流

### 【受入の記録】

2010年に受け入れを行ったギムナジウム・グリンデ(Gymnasium Glinde)との交流は回を重ね、2011年～2016年の6回にわたり、本校からドイツ訪問が実施され、相互訪問の形となった。

7回目の2017年はギムナジウム・グリンデに代わり、ドイツ中東部のチューリンゲン州にあるザルツマン・シューレ(Salzman Schule)を初めて訪問し、グリンデから1名、ザルツマン・シューレから1名の訪問を受け入れた。2018年度には11名、2019年度には13名をザルツマン・シューレから受け入れた。

### 第1回ドイツ交流校の受入れ ギムナジウム・グリンデ 2010年7月9日～14日

来校生徒：男子2名 女子6名

引率教員：2名

日程：7月9日(金) 体育館での野球部壮行会に参加し全校生徒に紹介し、午後は鎌倉訪問

10日(土) ホスト学生と共に都内観光

11日(日) 各家庭でホストファミリーと過ごす

12日(月) 授業に参加・ドイツ人生徒の英語によるドイツ文化プレゼンテーション

13日(火) 同上・放課後に視聴覚室にてさよならパーティー



授業に参加してドイツ文化のプレゼンテーション



鎌倉へ半日遠足



東京へ一日遠足



体育館で歓迎会



お別れ会

第6回ドイツ交流校の受入れ ザルツマン・シューレ 2023年9月17日～24日

ザルツマン・シューレ(Salzmansschule)はドイツの中東部チューリンゲン州にある学校である。2017年から交流校としての絆が始まった。本年度は9月15日より9月21日(木)の期間で生徒12名の訪問を受入れた。

来校生徒： 男子3名 女子9名

引率教員： 2名 税田先生・Ms. Klatt

日程：9月15日(金) 午後茅ヶ崎駅で出迎え、本校でホストファミリーと対面式

16日(土) ホスト生徒と共に東京へ遠足(集合場所@茅ヶ崎駅)

17日(日) ～18日(月) 各家庭でホストファミリーと過ごす

19日(火) 授業参加・クラスでドイツ文化のプレゼンテーション

4校時体育館にて歓迎会・放課後部活動(茶道部)に参加

20日(水) 円蔵中学校訪問・放課後フェアウェルパーティー

21日(木) 朝、茅ヶ崎駅にて見送り

緊張の対面式



東京遠足





歓迎会



体育の授業参加風景



茶道部体験



フェアウェルパーティー



お別れの朝





## 【訪問の記録】

第8回ドイツ訪問 ザルツマン・シューレ 2019年8月16～26日

生徒12名、引率教員2名で訪問した。

2019年8月16日（金）羽田空港を出発し、同日夕方にミュンヘン到着。ホテルに宿泊した。

8月17日（土）ノイシュヴァンシュタイン城、ヴィース教会を見学した。



8月18日（日）ミュンヘン市内を公共交通機関で見学した。



その後、飛行機でライプツヒまで行き、そこからバスでザルツマンシューレに行った。  
ホストの生徒と保護者の方がバス駐車場まで来て待っていてくれた。

8月19日（月）～22日（木）ザルツマンシューレの生徒と授業に参加したり、ディスカッション  
をしたり、エアフルトに遠足（タウンラリー）に出かけたりした。



タウンラリーではバディと共に行動し、市内各地を巡った。



休み時間や放課後には卓球などで積極的に交流した。



8月21日（水）ホストファミリーと共に夕食のバーベキューをした後「日本のタベ」を開催した。





日本の百円均一ショップ、サブカルチャー、料理、書道について紹介し、みそ汁とお茶を配ったり書道でホストファミリーの名前を書くなどのパフォーマンスも行った。



8月22日（木）校内の博物館を見学した。その後、授業に参加し、ドイツの生徒から日本語でインタビューを受けました。英語、日本語を混ぜて積極的にコミュニケーションを図った。



授業後はホームステイ先へ移動し、ホストファミリーと共に過ごした。

8月23日（金）～24日（土）ホストファミリーと共に週末を過ごした。史跡を見学したり、買い物やアクティビティに連れて行ってもらうなど充実した時間を過ごした。

8月25日（日）ホストファミリーやザルツマンシュエーと別れを惜しみながら学校を出発し、ライブツィヒへ向かった。市内見学・昼食の後ライブツィヒ空港からミュンヘン空港へ移動し、ミュンヘン空港から日本へ戻る飛行機に乗り込んだ。



## G. ニュージーランドの学校への訪問 【訪問の記録】

本年度 2023 年より新たにニュージーランドのオークランド近郊の学校を訪問することとなりました。20 名が訪問しました。

<b>第7回ニュージーランド訪問 ラザフォード・カレッジ 2023年8月17日～8月26日</b>
---

月日（曜）	現地時間・交通機関	スケジュール
令和5年 8月17日（木）	12:00 戸塚駅集合 18:30 成田発（NZ90便）	集合場所：戸塚駅（電車で成田空港へ） 搭乗・出国審査・出発  (機中泊)
8月18日（金）	8:05 オークランド着 9:30 空港発 専用バスで移動	入国手続き後、市内観光（ミッションベイ等）昼食後、 交流校へ移動。ホストファミリーと対面後各家庭へ。  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月19日（土）	オークランド	生徒はホストファミリーと行動  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月20日（日）	オークランド	生徒はホストファミリーと行動  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月21日（月）	オークランド ラザフォード・カレッジ	交流校訪問  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月22日（火）	オークランド ラザフォード・カレッジ	交流校訪問  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月23日（水）	オークランド ラザフォード・カレッジ	交流校訪問・日本文化紹介  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月24日（木）	オークランド ラザフォード・カレッジ	交流校訪問・お別れ会  生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月25日（金）	午前 交流校発 専用バスで移動 市内ホテル着	交流校に集合し、ホストファミリーと別れを告げ、オーク ランド市内ホテルへ移動。ホテルに荷物を預け市内班 別自主研修。市内レストランにて夕食後ホテルへ。  生徒・教員オークランド市内泊
8月26日（土）	早朝 ホテル発 専用バスで移動 9:50 オークランド発（NZ99便） 16:50 成田空港着	早朝ホテルをチェックアウトし、オークランド空港へ 移動（朝食はボックス型）。空路、帰国の途へ（約11 時間） 入国手続き後、解散。



8月17日（木）～26日（土）の10日間のプログラムを、ニュージーランド北部オークランドにて行いました。生徒20名、引率教員2名で訪問しました。



**8月17日(木曜日):**成田空港を出発し、約11時間後にオークランド空港に到着しました。専用バスで市内観光（サベージ・メモリアル、ミッションベイ等）をした後、ラザフォード・カレッジに移動し、ホストファミリーとの対面式が行われました。



**サベージ・メモリアル**



**ミッションベイ①**





ミッションベイ②



オークランド市内にてランチ



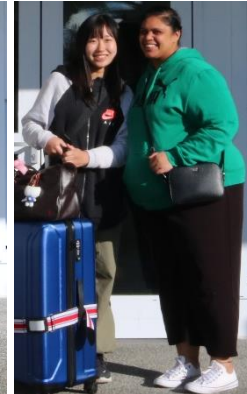
ホストファミリーとの対面①



ラザフォード・カレッジ正門前



ホストファミリーとの対面②



ホストファミリーとの対面③

8月19・20日(土曜・日曜日):各自終日それぞれのホストファミリーと過ごしました。



**8月21日(月曜日):**訪問1日目。スクールバディと対面し、マオリ族伝統の歓迎の儀式を受けました。鶴嶺高校も「となりのトトロ」の歌を贈りました。その後は、バディと共に授業を受け、ニュージーランドに関する特別授業も受けました。



**マオリ族伝統の歓迎の儀式**



**現地生徒との記念写真**



**マオリのゲーム①**



**マオリのゲーム②**



**バディとの対面①**



**バディとの対面②**





ニュージーランドに関する授業①



ニュージーランドに関する授業②

**8月22日(火曜日)**:訪問2日目。4時間目まではバディと授業を受けました。ランチ後の5時間目にドラマ・セッションに参加しました。与えられたお題をグループで表現している様子です。



**8月23日(水曜日)**:訪問3日目。バディに向けて、日本文化紹介のプレゼンテーションを行いました。事前学習で十分に練習した成果を発揮しました。午後は、体育館で、現地生徒と体育の授業に参加しました。



日本文化紹介①(おにぎり)



日本文化紹介②(書道)





日本文化紹介③(折り紙)



日本文化紹介④(アニメ)



体育①



体育②

**8月24日(木曜日):**訪問4日目。午前はバディと授業を受けました。ランチタイムにバディとピザを食べました。その後、修了証授与式に参加しました。さよならパーティーで、浴衣を着て、現地の生徒と盆踊りを踊りました。



ピザランチ①



ピザランチ②





修了証明書(Certificate)の授与式①



修了証明書(Certificate)の授与式②



現地生徒との盆踊りの様子①



現地生徒との盆踊りの様子②



現地生徒との盆踊りの様子③



現地生徒との盆踊りの様子④

**8月25日(金曜日):**訪問最終日。朝9時に学校でホストファミリーと別れ、バスでオークランド中心市街地に移動しました。



現地生徒との別れ①



現地生徒との別れ②

**8月26日(土曜日):**朝の5時にホテルからオークランド空港へと出発。11時間のフライト後、帰路成田空港へ。おつかれさまでした。

引率：渡辺 尚幸 古屋 朋大



## 【事前学習の発表】

### A. ニュージーランドの文化

49期生 新井奈那 佐藤輝琉

ニュージーランドでは、開拓者精神に見られる「全て上手くいく」という考え方、何世代にも渡る多様な人々の影響が豊かに混ざり合っています。マオリ文化はニュージーランドの日常生活において重要な役割を果たしています。マオリ語は公用語なので、「キア・オラ」という挨拶が聞こえてくることがあります。マナアキタンガ温かいおもてなしや、カイティアキタンガ自らを守り手と認識し、環境を大切にするといったマオリの価値観は、ニュージーランドの文化の基本となっています。

### ニュージーランドの開拓者精神

- ・全て上手くいく
  - ・何世代にもわたる多様な考え方が混合している
- ポジティブで関わりやすい性格の人が多い



伝統料理 ハンギ



食べ物はシェア



チップは払わなくていい



### マオリの価値観

- ・「キア・オラ」…マオリ語で挨拶を意味する
  - ・マナアキタンガ…敬意をもって来客に心づくしのおもてなしをすること
  - ・カイティアキタンガ…自らを守り手と認識し、環境を大切にすること
  - ・マオリ文化の人々は自らを「タンダガ・フェヌア(大地の人々)」と位置づけている
- ニュージーランドの元となっている



番号	Maori	Japanese
1	One	イチ
2	Two	ニ
3	Three	サン
4	Four	ヨン
5	Five	ゴ
6	Six	ロク
7	Seven	シチ
8	Eight	ハチ
9	Nine	ク
10	Ten	ジュウ



停留所の案内はしてくれない



### マオリの歴史

- ・偉大な探検家、クベがマオリとして初めてポリネシアに到達



## B. ニュージーランドの歴史

49 期生 北脇愛彩 原菖



### マオリ人の到着

ニュージーランドに初めてたどり着いたのはポリネシア文化を受け継いだマオリの人々でした。彼らは東ポリネシア諸島からカヌーに乗って海を渡り、北島のホキアンガ湾に到着しました。当時彼らはこの地を、長い白い雲のたなびく地という意味で「アオテアロア」と呼んでいました。



### ヨーロッパ人の到着

1642年にヨーロッパからオランダ人のアベル・タスマンがこの地に到着します。タスマンはオランダのゼーラント (Zeeland) 州出身なので、この地を新ゼーラント (Nieuw Zeeland) 島と名付けました。1769年にはイギリス人によって植民地化が進められ、1830年後半に入るとイギリスの植民会社が組織的な植民活動を開始します。1840年になるとイギリスとマオリ人との間でワイタンギ条約が結ばれ、この時から正式にニュージーランドと呼ばれるようになりました。



### マオリ戦争

ワイタンギ条約とはイギリス領となる一方で、マオリは自身の土地や文化の継承ができるという条約です。しかし実際にはイギリス人はマオリ人を騙して次々と土地所有権を買い取り、農園を作っていました。条約が守られていないことに不満を持ったマオリ人は武器を持って立ち上がり、マオリ戦争を起こしました。

ワイタンギ条約が守られていないことがきっかけとして起きたマオリ戦争は1860年から1872年まで約12年間続きました。イギリス政府は1863年から1865年にかけて反乱鎮圧法、ニュージーランド入植地法、先住民土地法を制定しました。マオリから土地を奪うための法律が制定されたことで戦争に関与したマオリの土地が没収され、1865年には南島の99%をイギリス政府が所有することになり、北島の土地の一部も没収されました。さらに、1865年から1890年までの間に土地譲渡法が制定され、300万ヘクタール以上の土地の所有権がイギリス政府に移転することとなったのです。結果として1920年には、マオリの人々が保有している土地の割合は、北島と南島を合わせてわずか8%となってしまいました。



C. ニュージーランドの学校生活

48 期生 村中珠 高橋砂羽



登校→小学校から制服



始業→日本と同じくらい  
(8時過ぎくらい)

下校→15時程度

ご飯→ティーブレーク  
家から持参した物を野外で  
食べるルール

ニュージーランドではピンクシャツデイという催しが毎年行われている。これは、いじめをなくすことを目的に行われている。これは全国の学校や職場で行われている



ピンクシャツデイのスローガンです。

**“Speak Up, Stand Together, Stop Bullying!”**  
(話そう、一緒に立ちあがろう、  
いじめをやめよう！)

D. ニュージーランドの地理

48 期生 島尾尚史 大久保海航

	日本	ニュージーランド
面積	37万km <sup>2</sup>	26万8千km <sup>2</sup>
人口	1.2億人	482万人
消費税	10%	15%
言語	日本語	英語、マオリ語
季節	春夏秋冬	冬秋夏春

	日本	ニュージーランド
平均最高気温	31°C(8月)	24°C(2月)
平均最低気温	2°C(2月)	9°C(8月)
降水量	210ml(9月)	125ml(7月)
飲酒喫煙可能年齢	20歳	18歳

## 【現地校での日本文化紹介】

### A. タイトル：ポケモン

Hello everyone. We are Kanon, Momoka, Kyoka, Nanako and Ririka. From now on, we will introduce you to the many Pokemon in Japanese anime.

Do you know Pokemon?

I'm talking about pokemon bread.

Pokemon bread has a Pokemon character drawn on the package.

Also, the reason for its popularity is that it comes with a "deco character sticker" as a bonus.

The product name contains the name of the character of Pokemon.

The package is printed with the logo of the currently airing anime series, and there are various types of bread such as steamed cakes, donuts, Danish pastries, croissants, etc. Japanese children love them.

'Pokemon GO' is a game that takes place in the real world itself by utilizing location information.

You can capture and battle with mysterious creatures

I only play during the "running time". You can solve the lack of exercise by playing. Here are some of the benetits of playing Pokemon GO.

- \* Slow jogging is no longer a pain
- \* Jogging became playful
- \* You can do training other than running
- \* An unknown road turned into a running course
- \* People who don't run will acquire "exercise habits"

Please try playing Pokemon GO!

New Zealand's latitude isn't that different from Japan's, so many region-exclusive Pokémon will appear in either.

However, Geelans and Pelap do not appear in Japan, so be sure to catch them when you come to New Zealand!



## B. タイトル：書道

### History

First, the history of calligraphy began in China in 300 BC.

It began in Japan around 590, when brushes, paper, and ink were introduced.

However, because it required a huge amount of money to learn the characters and to acquire the tools, it was not introduced to all people, and only warriors and aristocrats could use it.

Around 1600, with the development of educational institutions, calligraphy spread to the general public.

Calligraphy has been passed down to the present day with some changes.

### Tools

①ink②jug③writing brush ④Suzuri(in English is ink plate)⑤underlay⑥paperweight⑦paper

In the old days, ink was made by shaving the hardened ink like this, but now there is a convenient thing called ink.

### How to write

Next I will talk about the procedure for writing calligraphy. You have good posture. Hold the paper with your left hand. Drain the ink into the suzuri. Hold the brush slightly below the middle with your index and middle fingers. Hold the arm parallel to the desk and speak from the top of the desk, and move the entire arm.

### When do Japanese people start learning calligraphy?

Generally, students begin learning calligraphy in elementary school. Japanese calligraphy is considered a required subject from elementary school through junior high school.

The more elementary and junior high school students do it, the more calligraphy is treated as an important part of their culture!

By doing calligraphy, one acquires the skill of writing beautiful letters.

It will help you in many ways because you will get into the habit of writing carefully.

Calligraphy also calms the mind and improves the quality of life as well.

The time spent on calligraphy can also be an opportunity to communicate with others.

### Tips

Next, here are some tips on how to write calligraphy well.

Have you ever written calligraphy? It's very difficult to write.

First, look carefully at the model.

Pay attention to where to start and where to stop the brush.

Second, focus on writing.

Even if you make a mistake, do not rewrite it. Write it only once.

Third, don't compare yourself to others. Get the hang of it at your own pace.

I will talk about the typefaces of calligraphy.

Typefaces have changed over time. We will introduce five typefaces in order from the oldest to the newest.

This is the oldest typeface. It is called "Tenkensho. Most Japanese people cannot read it. You can see it in Japanese passports.

This is the next one.

Gradually, more and more people started to write letters, and the typeface changed to a simpler one. However, most Japanese cannot read this typeface either. You can see it in Japanese newspapers. It is called Reisho.

This is also unreadable. It is called sousho. You can see it in old card games.

However, most Japanese can read this typeface. This typeface is called Gyosho. It corresponds to the written form of the alphabet. My grandmother wrote this typeface. I can read but I can not write.

This is also readable. This typeface is called Kaisho. It is the most familiar typeface for Japanese people. Because it is currently used in textbooks and books.



### C. タイトル：折り紙

#### **What is origami?**

Origami is a traditional Japanese art of folding paper to make various shapes.

Ori → fold      Gami → paper

In Heian era ...

Origami began when paper was folded to wrap a gift or letter.

It is called Orikata.

Now origami has spread all over the world and there are many origami enthusiasts.

We Love Origami!!!!

OH! I forgot my cracker!!

Let's make paper cracker! Please somebody volunteer ?

- 1      fold the paper lengthwise
- 2      make triangle on four sides
- 3      fold on the center crosswise
- 4      fold once again like this



## Senbazuru

This is a Japanese lucky charm made by connecting 1000 cranes called senbazuru.

sennba →1000cranes

In Japanese culture cranes symbolizes longevity-it can live for 1000 years,brings good fortune and success. We give it for praying for the person's happiness.

Our school name is Tsurumine High School

“Turu” →crane      “mine” →ridge

That is why we decided to give Senbazuru to you!!



## D. タイトル：おにぎり

Let's start our presentation. Japanese onigiri has first appeared 2000 years ago. But at that time onigiri wasn't like onigiri, as what we know today. The first onigiri was made of red rice. Then it changed into white rice. After that, onigiri has been eaten by most Japanese people and loved by them. These Days Japanese people eat onigiri with sea weeds and it's also the image of onigiri all over the world

Why are rice balls triangular? Most of the rice balls are triangular. The reason comes in the Yayoi period. A long time ago, the people of the yayoi period didn't have medicine. So, they thought that we need the help from god. And they started to give some food to god. At the time, people thought that God is in the high place on the clouds. So, they imitated the shape of the mountain. Rice Ball shape became triangular in this way. Of course, there are shapes other than triangles in rice balls. An oval shape rice ball called "Tonjiki" appeared in books from the Heian period. There are also round-shaped rice balls at convenience stores. We can enjoy rice balls not only in taste but also in appearance.

Rice balls are loved in Japan. A Japanese survey found that about 98% of people like rice balls. So I would like to explain why rice balls are loved. The first reason is that it's easy to make. It's a simple

procedure of just holding rice, so even children can easily make it. In addition, you can also change the size according to the appetite of the day. Second, there are various kinds of rice balls. For example, there are various ingredients such as salmon and plums. The third reason is that rice balls are convenient and nutritious. There are many advantages. It can be pre-made, easy to carry as a portable food, and easy to eat. In addition, it is easier to balance nutrition by changing the ingredients inside. For example, plum rice balls can take in carbohydrates at the same time, so it is easy for the body to accumulate energy. In addition, the rice used in rice balls is also packed with various nutrients. Finally, rice balls are very cheap. You can buy rice balls sold at convenience stores for around 150 Japanese yen and about 1.71 New Zealand dollars. So you can eat cheaply. In this way, rice balls are not only very loved by Japanese people, but also a dish with a lot of charm. Is there anyone who volunteers to make and eat rice balls? But please refrain from those who are allergic to food.

**Let's do a Rice ball quiz !**

Question No,1 Which is the most popular rice ball? A is salmon rice ball. B is plum rice ball. Who thinks the answer is A, raise your hand. Who thinks the answer is B, raise your hand. The answer is.....A!! B's plum rice ball is in 10th place

Question No,2 Which is Japanese rice like? A is thin and hard rice. B is soft and sweet rice. Who thinks the answer is A. Raise your hand. Who thinks the answer is B? Raise your hand The answer is.....B!! A is Thai rice.

Question No,3 How many types of rice balls are there in Japan? A is 53 types. B is 127 types. C is 228 types. Who thinks the answer is A? Raise your hand. Who thinks the answer is B? Raise your hand. Who thinks the answer is C? Raise your hand. The answer is..... C!! There are many kinds of rice balls in Japan.For example, Tuna mayonnaise rice ball,tempura rice ball, grilled rice ball,animal rice ball,character rice ball etc...



**Onigiri**  
Japanese Rice Ball



## V. 本校から海外への留学

---

毎年、数名の生徒が様々な斡旋団体を通してアメリカ、イギリス、イタリア、韓国、カナダといった様々な国の高校へ1年間の留学を果たし、その単位を生かして進級・卒業してゆく。成果は様々だが、誰もが異文化の中でことばの習得から始まり、そこでの風習に馴染み、ホームステイ先での交流を中心とした異文化コミュニケーションを体験し、一回り大きくなって戻ってくる。

### 留学で学んだ大切なこと

44期 神谷凜

こんにちは、神谷凜です。

私は2年生の終わりから3年生の11月までの9ヶ月間ニュージーランドの高校へ留学しました。日本とニュージーランドでの高校生活は自分が考えていた以上に辛いことも楽しいこともたくさんあった9ヶ月間でした。

毎日の生活が新しいこととの出会いの連続でそれは本当に多くの事を学ぶ事ができ、自分自身を大きく成長させてくれました。私はもともと英語が1番苦手な教科でした。しかし私が将来なりたい夢をかなえる過程で様々な言語を習得することは必要不可欠でした。その第一歩が英語への苦手を克服することでした。そして克服には直接現地へ行き生きた英語に触れることでした。実際現地に行ってからコミュニケーションもうまく取れず悩むことも多かったですが、少しずつ成長し周りの人に支えられながら生活を送る事ができ、充実した留学生活になりました。実を言うと最初のホームステイ先ではうまくいかず家を変えたこともありましたが、変えるときにはマザーと喧嘩もしましたが自分の意見を伝えることの大切さも知りました。なぜなら自分の気持ちを伝えたことにより良い方向へと私の留学生活が変化していったからです。

自分の気持ちを伝えることも英語も苦手だった私がここまで成長できたのはたくさんの人との出会いでした。私は人との出会いが無ければ成長の機会もないのではないかと考えています。何かを努力し成し遂げるのは自分自身ですが、何かを見つける過程で刺激を受けるのは人との関わりから生まれるものだと思います。

留学というとなにか大きなことで、英語を学ぶ事が大きな意味のように感じるかもしれませんが、実際はそうではなく、興味と世界へと踏み出す少しの勇気さえあれば何事もうまくいくと思います。私はこの9ヶ月間の経験を大切にして自分の夢を叶えたいと思います。

Hi I'm Rin Kamiya.

I studied abroad at a high school in New Zealand for nine months from the end of my sophomore year to November of my junior year. My high school life in Japan and New Zealand was a lot more difficult and fun than I thought it would be.

I was able to learn a lot of new things and grow a lot in my life. English has always been my weakest subject. However, it was essential for me to learn various languages in the process of fulfilling my dream. The first step was to overcome my weakness for English, and the best way to do that was to go directly to the location and experience real English. Once I got there, I had a lot of trouble communicating, but I was able to grow little by little and live my life with the support of the people around me, and it was a fulfilling study abroad experience. To tell the truth, I had a hard time getting

along with my first homestay family and had to change houses. When I changed houses, I had a fight with ex my mother. But I could learn the importance of expressing my opinions, because by expressing my feelings, my life as an international student changed for the better.

I was not good at communicating my feelings and English, but I was able to grow so much because of the many people I met. I believe that without encounters with people, there would be no opportunities for growth. It is up to me to make the effort and accomplish something, but I believe that it is the relationships with people that inspire me in the process of finding something.

When you think of studying abroad, you may feel that it is something big, and that learning English is the big thing. However, in reality, it is not. I believe that with interest and a little courage to step out into the world, anything is possible. I'll cherish the experience of these nine months and make my dreams come true.



## VI グローバル教育に係る授業改善について

本校では英語コミュニケーション能力等の育成に力を入れ、生徒の発信力の向上に向け様々な取り組みを行っています。以下にその一例をご紹介します。

■アクション・リサーチによる授業実践 ー生徒が自信を持って英語を話すようになるためにー

英語科（教諭）川口和良

### 1. はじめに

本校に赴任して3年目を迎え、英語教育中核教員研修の一環としてアクション・リサーチの手法による授業改善を1年間おこなった。アクション・リサーチとは、学習者の能力の向上と授業の改善を目指して、学習者の能力向上に向けての課題点や授業における課題を客観的なデータをもとに細かく具体的に特定し、問題の一つひとつに対して、改善の手立てを講じながら授業改善をおこなっていくものである。

### 2. 解決すべき課題

対象は2学年の2クラス77名（男子38名、女子39名）の生徒である。英語力を向上させたいと思っている生徒が多く、活動には意欲的に取り組むが、英語力の自信のなさから発問をしても反応が薄い。進路希望は例年と同様に4年制大学への進学を視野に入れている生徒が多い。

大きな課題としては、自身の考えたことや気持ち、身近なことについて、ある程度まとまった内容を、自信を持って英語で話して欲しいのだが、話題や質問について簡単な言葉で返答するのみで、自身の考えたことや気持ち、身近なことについて、ある程度の分量で話すことができないということが挙げられる。授業の導入で話す活動を行っても、1分も英会話が続かないどころか、30秒ペアで話し続けることに困難を感じている場合も多く見受けられる。まずはトピックについて自身の考えたことや気持ちをある程度の分量を話す力を育てたい。

### 3. 事前の現状把握（アンケート、テストの結果など）

4月25日に両クラスで現状把握のための事前アンケート（回答者数69名）を実施した。英語を話す力を最も伸ばしたい力と考えており、97.1%の生徒が将来必要な力と考えていることがわかった。話せるようになりたいこととして、身近なことがらについての簡単な説明が56.5%、聞いたり読んだりしたことに対する簡単な意見・感想が42%、身近な話題に関する意見が36.2%という結果になった。

この結果を受けて、5月下旬に生徒の話す力の現状を知るためのテストを実施した。英検準2級の間4と5を活用し（以降、質問1・質問2とする）、以下の自作ループリックにしたがって評価した。

	内容	正確さ	話し方
A	<p>&lt;質問1&gt; 話題に対して、2つ以上の理由や例などによって論理的に意見を表明している。</p> <p>&lt;質問2&gt; 話題に対して、2つ以上の自身に関する情報を追加して内容を深めて述べている。</p>	適切な文の形で応答している。	声の大きさ、明瞭さ、話す速度が適切であり、英語らしい強弱への意識や区切り方など、聞き手が理解しやすくなる工夫をしている。
B	<p>&lt;質問1&gt; 話題に対して、2つ以上の理由や例などによって意見を表明している。</p> <p>&lt;質問2&gt; 話題に対して、2つ以上の自身に関する情報を追加して述べている。</p>	適切な文の形ではない部分があるが、伝わる表現で応答している。	声の大きさ、明瞭さ、話す速度が適切である。
C	話題に対して意見を表明しているが、理由や例または自身に関する情報の内容が不十分である。または1つしか述べられていない。	ほとんど何も応答することができていない。	声の大きさ、明瞭さ、話す速度が適切ではない。

5月実施：受験者数 72 名

	質問1 評価				質問2 評価		
	内容	正確さ	話し方		内容	正確さ	話し方
A	12.5%	8.3%	6.9%	A	18.1%	13.9%	13.9%
B	41.7%	55.6%	68.1%	B	61.1%	72.2%	79.2%
C	45.8%	36.1%	25.0%	C	20.8%	13.9%	6.9%

質問1の例：Do you think it is a good idea for students to work part-time?

質問2の例：These days, many people exercise to stay healthy. Do you often exercise?

結果を振り返ると、いくつかの課題が浮かび上がってきた。

一つは、質問1の身近な話題について、何も応答することができない受験者が36.1%も存在することであった。もう一つは、自身のことを話しやすい質問2であっても、2文で主語・動詞を中心とした正確な形で、英語らしい話し方で話すことができる受験者は2割を満たなかったことであった。

いずれのタイプの質問にしても、話すまでに時間がかかったり、あるいは話す量が限定されてしまったりするため、自身の考えたことや気持ち、身近なことについて、ある程度の分量で話すことができないという課題が明白となった。

#### 4. リサーチ・クエスチョン

日常的なことについて、自身の考えや気持ちを、自信を持って論理的に話す力を身につけるには、どのような指導をすればよいか。

改善の目安：

- ・自信を持って話す活動に取り組めるようになったと答える生徒が全体の8割を超える。
- ・日常的なことを話す力が向上したと答える生徒が全体の8割以上になる。

#### 5. 改善のための手だて

- スピーキング活動の支援を工夫すれば、自信を持って意欲的に話す活動に取り組むようになるだろう。
  - ・話す前にどのようなことを話すかメモを取る。
  - ・会話の枠組みや使用語彙を与え、それを活用して話す活動をおこなう。
  - ・話した後に、活動中にできたことの振り返りを記録する。
- 日常的なことを話す練習機会を多く設ければ、英語を話すことに慣れて抵抗感が少なくなるだろう。
  - ・帯活動を中心に、週に2回以上、教科書の内容に関連した話題についてペアで1分間会話する。
  - ・話題について汎用性のある表現や教科書で習った表現を話す前に提示し使うよう促す。
  - ・話した後に自身や相手が使用した表現を記録し、いつでも参照できるようにする。
- 論理的なディスコースの作り方を明示的に指導すれば、論理的に考えを整理して話せるようになるだろう。
  - ・つなぎ言葉やディスコースマーカーを使う練習をライティングの時間に練習する。
  - ・抽象から具体へと話を展開させる練習をする。

#### 6. 生徒の変化（途中経過、事後の検証結果など）

11月実施：受験者数75名 ※（ ）内の数字は5月実施のもの

質問1 評価				質問2 評価			
	内容	正確さ	話し方		内容	正確さ	話し方
A	38.9% (12.5)	45.8% (8.3)	45.8% (6.9)	A	69.4% (18.1)	45.8% (13.9)	50.0% (13.9)
B	50.0% (41.7)	52.8% (55.6)	51.4% (68.1)	B	29.2% (61.1)	54.2% (72.2)	48.6% (79.2)
C	11.1% (45.8)	1.4% (36.1)	2.8% (25.0)	C	1.4% (20.8)	0.0% (13.9)	1.4% (6.9)

事後テストではそれぞれの観点の評価C判定を受けた受験者が大幅に減り、特に正確さの観点では質問1では1名が評価Cで質問2については一人も評価Cの受験者がおらず、どちらの質問についてもおよそ90%弱の受験者が質問に対して意見や自分に関する情報を2つ以上述べる事ができたという結果となった。このことについて、話す前にどのようなことを話すかメモを取って思考を整理してから話す活動を行ってきたことや、汎用性のある会話の枠組みや使用語彙を使いながら練習してきた成果であると言える。話し方の観点でも正確さと同様に評価Aの受験者が増加しているが、前述した手だてと合わせ



て、話す練習機会を定期的に設定して練習してきたこと、話の内容を抽象から具体へと展開するよう意識してきたことが、話すことへの自信につながり、英語を話す際の意識が話す内容のみならず、声の大きさや英語らしい発音などに向けることができた結果だと考える。続いて、12月11日に事後アンケート（回答者数63名）を実施した。

1. あなたは自信を持って話す活動に取り組めるようになりましたか？

取り組めるようになった	まあまあ取り組めるようになった	あまり取り組めるようにならなかった	ほとんど取り組めるようにならなかった
11.1%	58.7%	27.0%	3.2%

2. あなたは日常的なことを話す力が向上したと感じるようになりましたか？

感じるようになった	感じるようになった	あまり感じるようにならなかった	ほとんど感じるようにならなかった
15.9%	57.1%	23.8%	3.2%

改善の目安ではそれぞれの質問項目について肯定的に答える生徒が全体の8割を目標としていたので、どちらも7割程度のため目標の達成とはならなかった。「まあまあ取り組める（感じる）ようになった」と答えた生徒が大半を占めている。生徒の記述式回答をいくつか参照してみると、「自分が話す単語や熟語が本当に正しいのかが不安だから」、「英語の発音がわからないから」という回答があり、伝えたいことをより正確に伝えることを求めるが故に、文法や語彙の使用に不安を感じている生徒が少なくないということがわかった。このことについては、知識・技能の正確な運用を追求していくことで、生徒が英語を話す際にさらに自信を持って話せるようになるのではないかと感じる。

## 7. 教師の変化

- ・単元のゴールタスクを必ず設定し、それを達成するための手段としてどのように授業をデザインするかを考える習慣がついた。
- ・単元のゴールタスクとその単元でつけさせたい力を考え、授業を組み立てる上でそれを実現するために必要な活動かどうかを考えて活動の取捨選択をするようになった。
- ・以前よりも同僚と授業や教材について意見を交わし、考えを共有するようになった。

## 8. 今後の課題（次の改善点など）

- ・生徒は自分の考えを述べる以前に質問の内容を聞き取れていない、または理解できていない可能性があるため、リスニング指導と発音指導も合わせて必要であると感じた。
- ・話す活動を実施したときに、生徒が産出した内容にフィードバックをおこなうことがあまりできなかったため、適切で適度なフィードバックの方法を考え実践していく必要があると感じた。
- ・話す前にあらかじめメモを取る活動時に、ICT機器を用いて調べさせているが、ウェブサイトやアプリの翻訳機能を正しく使いこなせないため、正しくない表現を正しいと思い込み使用しているケースが見受けられるので、英語の言語活動におけるICT機器の活用の仕方を指導すべきだと実感した。

## **9. まとめ・感想**

アクション・リサーチを1年間おこなってきたことで、生徒が英語の4技能5領域の中で最も必要で獲得したいと思っている話す力に焦点を当て、多数の生徒が話す力が向上したと実感できる授業実践ができたという事実が、今後の自己の授業改善の中で大きな柱になっていくと確信している。改善の目安が未達成という結果に終わったが、さらに改善できる部分を発見することができたので、この経験を活かして今後もアクション・リサーチの手法による授業改善をおこない、自己研鑽に励みたい。

## **10. 授業改善にあたって参考にした資料等**

白井恭弘(著). (2023).『英語教師のための第二言語習得理論入門[改訂版]』大修館書店

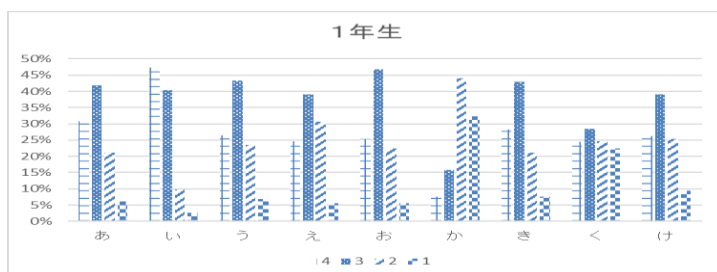
鈴木渉(編). (2017).『第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店

高島英幸(編著). (2020).『タスク・プロジェクト型の英語授業』大修館書店

## VI 令和5年度 国際教育に関するアンケート結果

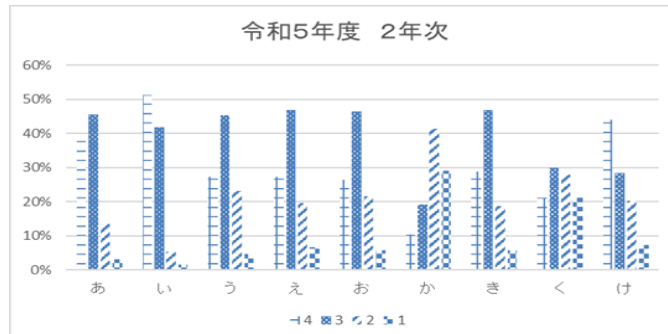
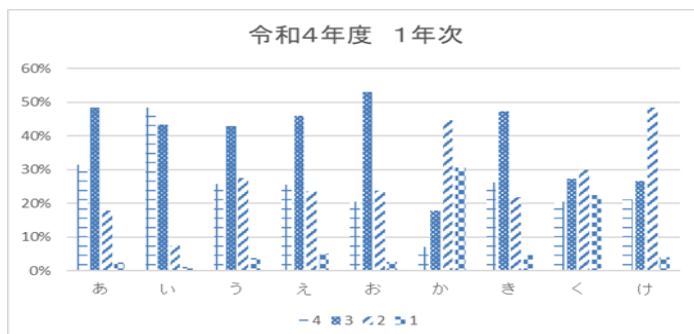
	質問項目
あ	外国語に対する興味・関心はありますか？
い	今後、外国語によるコミュニケーション力を伸ばしていきたいですか？
う	鶴嶺高校の国際交流の行事(海外交流校訪問, 留学生来校など)について、興味・関心はありますか？
え	日本の文化、歴史、社会等について、興味・関心はありますか？
お	日本の文化、歴史、社会等について、何か1つでも日本語で説明できますか？
か	日本の文化、歴史、社会等について、何か1つでも外国語で説明できますか？
き	外国の文化、歴史、社会等について、興味・関心はありますか？
く	学校以外(国内)で外国人と交流をしたことがありますか？
け	日本に在住する外国人と交流したり、国際交流活動をしたいと思いませんか？

### 49期 1年生

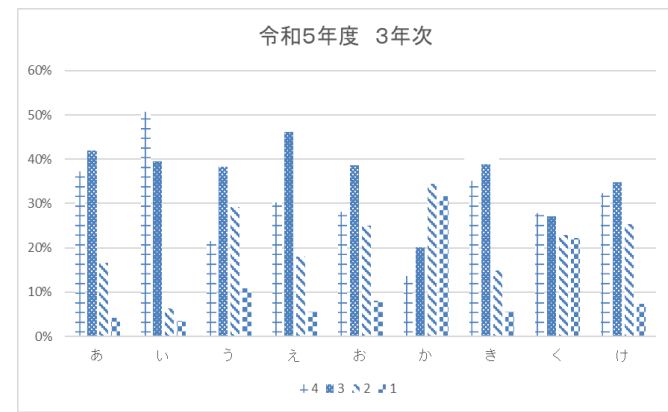
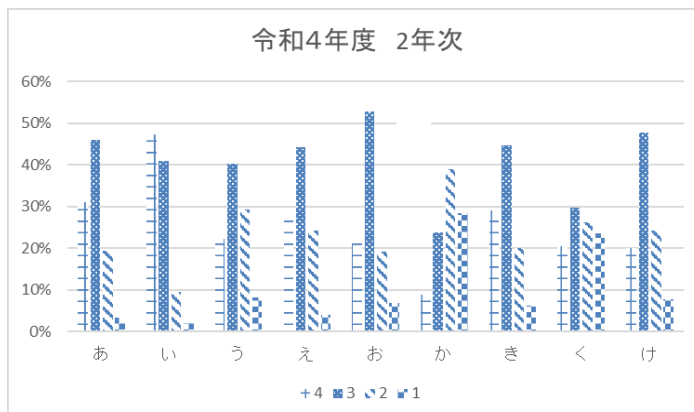


- |               |
|---------------|
| 4. かなり当てはまる   |
| 3. ほぼ当てはまる    |
| 2. あまり当てはまらない |
| 1. 当てはまらない    |

### 48期 2年生



### 47期 3年生



[アンケート分析]

- ・ 49期1年生の質問 お「日本の文化、歴史、社会等について、何か一つでも日本語で説明できますか？」について「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が72%であり、48期生の1年次の合計73%と変わらない。
- ・ 48期2年生の質問 う「鶴嶺高校の国際交流の行事（海外校訪問、留学生来校など）について、興味・関心はありますか？」について「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が1年次合計69%から2年次合計72%と増加している。質問 か「日本の文化、歴史、社会等について、何か一つでも外国語で説明できますか？」について「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計は1年次の合計25%から2年次の合計29%と増加している。質問 け「日本に在住する外国人と交流したり、国際交流活動をしたと思いますか？」について1年次合計48%から2年次合計72%と大きく増加している。
- ・ 47期3年生の質問 う「鶴嶺高校の国際交流の行事（海外校訪問、留学生来校など）について、興味・関心はありますか？」の「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計が2年次合計62%から3年次合計59%と少々減少しているが、継続して興味・関心を保っている。
- ・ 47期3年生の質問 質問 か「日本の文化、歴史、社会等について、何か一つでも外国語で説明できますか？」の「4. かなり当てはまる」と「3. ほぼ当てはまる」の合計は2年次の合計33%から3年次の合計34%と大きな変化はない。

[今後の課題]

- ・ 今年度は、国際交流活動が本格再開した初年度であるが、47期3年生は、グローバル発表会等の国際交流活動に参加していない。このことが、2年生から3年生にかけて質問 お と 質問 かの数値が伸び悩んでいる一因だと考えられる。来年度は、3年生にも積極的に国際交流活動に参加の機会を与え、また新カリキュラムにより、英語を活用する機会が増えることから、質問 お と 質問 かの数値が改善することが見込まれる。
- ・ 多くの生徒が、高校3年間を通じて、英語学習や国際交流活動に対する興味・関心が高められる一方、各学年において、約2～3割程度、国際交流活動に対して興味・関心を持たない生徒が存在する。今後は、異文化交流事業に関する行事について生徒への周知を徹底し、入学初年度から無理なく、より多くの生徒が国際交流活動に参加できるよう計画的な指導をしていく必要がある。そして、今後より多くの生徒が、外国語学習、および国際交流に対して強い興味関心を抱き、最終的には、そこで得た知見を活かし、自己の成長につなげられるよう期待したい。